

<2024年度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|--|-----|-------|-------|-----------|
| 科目 | 人間関係論Ⅰ | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 1年次 |
| | | 教授法 | 講義 | 単位数コマ | 2単位(15コマ) |
| 教員 | 岩崎 文明 | 領域 | 人間と社会 | 実務経験 | 介護施設 |
| 教科書 | 最新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版 (中央法規) | | | | |
| 参考書 | 介護福祉士養成テキスト「人間の尊厳と自立」(建帛社) | | | | |
| 成績評価 | 出席状況・受講態度・提出物・試験による総合評価 | | | | |
| 評価基準 | 学則に準じる | | | | |
| 到達目標 | 人間の尊厳や人権・権利擁護について学び、尊厳を守る介護と自立支援の関係性を理解する。 | | | | |
| 留意点 | 自分の考えをきちんと持てるように。また、他者の話に耳を傾けられるようにして下さい。 | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | 教科書を中心に復習。 日常生活、実習を通して教養や倫理的態度を学ぶ。 | | | | |
| 授業内容 | 介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、介護を必要とする人に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基盤となる教養、総合的な判断力及び豊かな人間性をつくる。 | | | | |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|-----------------------|-------------|
| 1 | オリエンテーション 人間の尊厳と利用者主体 | 教科書 シラバス |
| 2 | 人権思想の潮流とその具現化 | 教科書 プリント |
| 3 | 人権や尊厳に関する日本の諸規定 | 教科書 プリント |
| 4 | 社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷 1 | 教科書 プリント |
| 5 | 社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷 2 | 教科書 プリント |
| 6 | 人権尊重と権利擁護 | 教科書 プリント |
| 7 | 人間の尊厳と人権・福祉理念のまとめ | 教科書 プリント |
| 8 | 自立の概念の多様性 | 教科書 プリント |
| 9 | 利用者の主体性を大切にしたい声掛けを考える | 教科書 プリント |
| 10 | 自立とは | 教科書 プリント |
| 11 | 介護を必要とする人の自立と自立支援 | 教科書 プリント |
| 12 | 介護を必要とする人の尊厳の保持と自立支援 | 教科書 プリント |
| 13 | 自立支援の実際 | 教科書 プリント |
| 14 | まとめ、振り返り | 教科書 プリント |
| 15 | 前期試験 | |

<2024年度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|--|-----|-------|-------|-----------|
| 科 目 | 人間関係論Ⅱ | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 1年次 |
| | | 教授法 | 講義 | 単位数コマ | 1単位(15コマ) |
| 教 員 | 中居 時子 | 領域 | 人間と社会 | 実務経験 | 介護施設 |
| 教科書 | 最新 第2版 介護福祉士養成講座 人間の理解Ⅰ(中央法規) | | | | |
| 参考書 | 介護の基本Ⅰ、Ⅱ(中央法規) コミュニケーション技術(中央法規) | | | | |
| 成績評価 | 定期試験、出席状況、ワークシートの提出物 | | | | |
| 評価基準 | 定期試験60点以上を合格とし詳細は学校の評価基準による、学則で定める出席率による | | | | |
| 到達目標 | 対人関係を形成する為のコミュニケーションの基礎を理解し、基本的態度や援助関係の原則を身に付け、組織内で求められているコミュニケーションを図ることができる。 | | | | |
| 留意点 | | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | | | | | |
| 授業内容 | 介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを享受する ①人間と人間関係 ②対人関係におけるコミュニケーション ③対人援助関係とコミュニケーション ④組織におけるコミュニケーション | | | | |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|--|-----------|
| 1 | 授業ガイダンス 第2章 人間関係とコミュニケーション 1、人間の誕生と介護関係 2、自分と他者の理解 | 教科書 資料 |
| 2 | " 3、発達心理学からみた人間関係 | 教科書 資料 |
| 3 | 4、社会心理学からみた人間関係 | 教科書 資料 |
| 4 | 5、人間関係とストレス | 教科書 |
| 5 | 第2節 人間関係におけるコミュニケーション 1、コミュニケーションの概念 | 教科書 |
| 6 | " 2、コミュニケーションの基本構造 | 教科書 演習 |
| 7 | " 3、コミュニケーションの手段 | 教科書 演習 |
| 8 | 第3節 対人関係とコミュニケーション 1、対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション | 教科書 演習 |
| 9 | " 2、対人援助における基本的態度 | 教科書 |
| 10 | " " | 教科書 演習 |
| 11 | " 3、バISTECKの7原則 | 教科書 演習 |
| 12 | 第4節 組織におけるコミュニケーション 1、組織の条件とコミュニケーションの特徴 | 教科書 |
| 13 | " 2、組織における情報の流れ 3、組織において求められるコミュニケーション | 教科書 演習 |
| 14 | 定期試験に向けて | テキスト |
| 15 | 前期定期試験 | |

<2024年度>

| | | | | | |
|-------------|---|-----|-------|-------|-----------|
| 科 目 | しゃかい ふくし しゃかい ほしやう 社会福祉と社会保障 | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 1年次 |
| | | 教授法 | 講義 | 単位数コマ | 2単位(15コマ) |
| 教 員 | 畠山 仁美 | 領域 | 人間と社会 | 実務経験 | 病院・社協 |
| 教科書 | さいしん だい ほん かいご ふくし し ようせいこうざ しゃかい りかい ちゆうおぼうき 最新 第2版 介護福祉士養成講座 2 社会の理解 (中央法規) | | | | |
| 参考書 | かいご ふくし ようご じてん ちゆうおぼうき かいご ふくし し じつむしや けんしゆう だい かん にんげん しゃかい 介護福祉養護辞典(中央法規) 介護福祉士実務者研修 第1巻 人間と社会 | | | | |
| 成績評価 | ていき しけん てんじやう しゅつせきじゆぎよきいど ていしゆまつ かねん そうごうひやうか 定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価 | | | | |
| 評価基準 | てんじやう S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満) | | | | |
| 到達目標 | ちいき しゃかい せいかつ しえん きそてき ちいき み ●地域社会における生活とその支援について基礎的な知識を身につける ちいき きやうせいひやかい じつげん む せいど せ さく りかい ●地域共生社会の実現に向けた制度や施策を理解する しゃかいほしやう すいり りかい ●社会保障の推移について理解する | | | | |
| 留意点 | じれい お ま りかい 事例など織り交ぜ理解しやすいようにする。 また、項目ごとにワークを宿題にして整理できるようにする。 | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | がっこうしゆうへん りかい ちいき で くふう ほんまめい ほんまめい 学校周辺の理解をするため地域に出てどんな工夫があるかまとめて発表する | | | | |
| 授業内容 | かいご ふくし かいご しせつ とう きんむ けいけん ふ ほんまめい つぎ きやうじゆ 介護福祉士として介護施設等での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 しゃかいせいかつ にんげん してん ● 社会生活を、人間の視点でとらえてみる せいかつ たようせい かねん きのう やくわり りかい ● 生活の多様性・家庭機能と役割を理解する しゃかい そしき きのう やくわり りかい ● 社会・組織の機能と役割を理解する ちいき きやうせいひやかい じつげん む せいど せ さく りかい ● 地域共生社会の実現に向けた制度や施策について理解する しゃかいほしやう せいど すいり りかい せいり ● 社会保障制度の推移について理解し整理できる | | | | |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|---|-----------|
| 1 | だい しょう しゃかい せいかつ 第1章 社会と生活のしくみ だい せつ せいかつ へんひろ 第1節 生活を幅広くとらえる | こうぎ 講義 |
| 2 | だい せつ せいかつ きほん きのう 第2節 生活の基本機能 | こうぎ 講義 |
| 3 | だい せつ へんか 第3節 ライフスタイルの変化 | こうぎ 講義 |
| 4 | だい せつ かぞく きのう やくわり 第4節 家族の機能と役割 | こうぎ 講義 |
| 5 | だい せつ しゃかい そしき きのう やくわり 第5節 社会・組織の機能と役割 第6節 地域・地域社会 | こうぎ 講義 |
| 6 | がっこうしゆうへん かんきやう ふくし しせつなど し ちいき せいかつ りかい 学校周辺の環境と福祉施設等について知る (地域の生活を理解) | ワークショップ |
| 7 | だい せつ ちいき しゃかい せいかつしえん 第7節 地域社会における生活支援 | こうぎ 講義 |
| 8 | だい しょう ちいき きやうせいしゃかい じつげん む せいど しやく 第2章 地域共生社会の実現に向けた制度や施策 だい せつちいき ふくし ほってん 第1節 地域福祉の発展 | こうぎ 講義 |
| 9 | だい せつ ちいき きやうせいしゃかい 第2節 地域共生社会 | こうぎ 講義 |
| 10 | だい せつ ちいき ほうかつ えんしゆう 第3節 地域包括ケア (演習) | こうぎ 講義・演習 |
| 11 | だい しょう しゃかい ほしやう 第3章 社会保障 だい せつ しゃかい ほしやう きほんてき かんが かのた 第1節 社会保障の基本的な考え方 | こうぎ 講義 |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|--|-----------|
| 12 | だい せつ 第2節 にほん しゃかいほしょう せいど はつたつ 日本の社会保障制度の発達 | こうぎ 講義 |
| 13 | だい せつ 第3節 にほん しゃかいほしょう 日本の社会保障のしくみ | こうぎ 講義 |
| 14 | だい せつ 第4節 げんだいしゃかい しゃかいほしょう 現代社会と社会保障 | こうぎ 講義 |
| 15 | ていき しけん 定期試験 | |

<2024年度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|---|-----|-------|-------|-----------|
| 科目 | アクティビティ・ケア (レクリエーション) | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 1年次 |
| | | 教授法 | 演習 | 単位数コマ | 1単位(15コマ) |
| 教員 | 依田 淑子 | 領域 | 人間と社会 | 実務経験 | 体育指導センター |
| 教科書 | その都度資料を用意する | | | | |
| 参考書 | レクリエーション教本 | | | | |
| 成績評価 | 支援実習1～3の発表内容により評価する | | | | |
| 評価基準 | 学則に準ずる | | | | |
| 到達目標 | レクリエーションの発案と実践 | | | | |
| 留意点 | 現場で応用できるような内容を提供する | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | 介護実習で実践状況を見学・参加する | | | | |
| 授業内容 | 体育指導員としての経験を踏まえ、本科目では現場ですぐに使えるレクリエーションとアイデアを教授する。 | | | | |

授業内容

| 日程 | 内容 | 使用機材等 |
|----|---------------------------|-------------|
| 1 | レクリエーションとは？レクリエーションの財を考える | |
| 2 | 福祉レクリエーションの考え方 季節にあった折紙 | ファイル 折紙 文房具 |
| 3 | 季節に合った折紙 アイスブレーキング1 | ファイル 折紙 文房具 |
| 4 | 季節に合った折紙 アイスブレーキング2 | ファイル 折紙 文房具 |
| 5 | 身近な物を使ったレクリエーション1 | ファイル 文房具 |
| 6 | 身近な物を使ったレクリエーション2 | ファイル 文房具 |
| 7 | 身近な物を使ったレクリエーション3 | ファイル 文房具 |
| 8 | 季節を楽しむ飾り制作1 | ファイル 文房具 |
| 9 | 静的レクリエーション | ファイル |
| 10 | 季節を楽しむ飾り制作2 | ファイル 文房具 |
| 11 | 動的レクリエーション | ファイル |
| 12 | レクリエーション支援の為のスケジュールと体操作り | ファイル |
| 13 | レクリエーション支援実習1 | |
| 14 | レクリエーション支援実習2 | |
| 15 | レクリエーション支援実習3 | |

<2024年度>

| | | | | | |
|-------------|--|-----|-------|-------|-----------|
| 科目 | かいごさーびすまなー 介護サービスマナー | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 1年次 |
| | | 教授法 | 講義 | 単位数コマ | 1単位(10コマ) |
| 教員 | 畠山 仁美 | 領域 | 人間と社会 | 実務経験 | 福祉施設 |
| 教科書 | 「かいご・ふくしよくのためのせつぐうまなーばーふえくとぶつぐあちゆうおうほうき、「いりようせつぐう」「まなーだいてん」にひがしや 「介護・福祉職のための接遇マナーパーフェクトブック」中央法規、「医療接遇」「マナー大事典」西東社 | | | | |
| 参考書 | 「まなーだいてん さいとうしゃ 「マナー大事典」西東社 | | | | |
| 成績評価 | しゅつせきようきよう こうぎ えんしゅう と く ていしゅぶつ てんいじよう ごうかく ◎出席状況 ◎講義・演習の取り組み ◎提出物 60点以上を合格とする | | | | |
| 評価基準 | てんいじよう S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満) | | | | |
| 到達目標 | かいご ふくしよ せつぐう きほん み 介護福祉士としての接遇・サービスマナーの基本を身につける | | | | |
| 留意点 | じっせん 実践できること | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | ひび せいかつ じっしゅげんば かつよう 日々の生活や実習現場で活用できるようにする | | | | |
| 授業内容 | かいご ふくしよ かいごせつ とう きんむ けいけん ふ ほんかもく つぎ きやうじゅ 介護福祉士として介護施設等での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 ◎ 基本的接遇やマナーを理解する ◎ 理解したことを元実践できる(演習にて) ◎ 利用者・家族・施設職員(同僚)との良好な関係が築けるスキルを身につける | | | | |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|-------------------------------|--------------------|
| 1 | コミュニケーション技術の重要性について | こうぎ えんしゅう 講義・演習 |
| 2 | 接遇の基本について | こうぎ えんしゅう 講義・演習 |
| 3 | 職場における挨拶のマナー (お辞儀の種類・一般的な挨拶) | こうぎ えんしゅう 講義・演習 |
| 4 | 敬語とクッション言葉 (敬語の種類・使い分け・基本ルール) | こうぎ えんしゅう 講義・演習 |
| 5 | 電話の受け方の基本・かけ方の基本 | こうぎ 講義 |
| 6 | 来客基本マナー | こうぎ 講義 |
| 7 | 席次の基本・スマートな名刺交換 | こうぎ えんしゅう 講義・演習 |
| 8 | 職場内の人との付き合い方 | こうぎ えんしゅう 講義・演習 |
| 9 | 医療接遇について | こうぎ えんしゅう 講義・演習 |
| 10 | 確認試験・総評 | |

<2024年度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|--|-----|------|-------|------------|
| 科目 | 介護の基本 I | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 1年次 |
| | | 教授法 | 講義 | 単位数コマ | 4単位 (30コマ) |
| 教員 | 岩崎 文明 | 領域 | 介護 | 実務経験 | 介護施設 |
| 教科書 | 最新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I (中央法規) | | | | |
| 参考書 | 介護福祉用語辞典(中央法規) プリントを配布する為、ファイルを用意してください | | | | |
| 成績評価 | ◎ 定期試験60点以上 ◎ 出席状況 ◎ 提出物 ◎ 授業態度 | | | | |
| 評価基準 | S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満) | | | | |
| 到達目標 | 「その人らしい生活」を支援する専門職として基本となる考え方や姿勢を身に付ける 介護福祉士の地域での活躍を学び、地域生活を支える在り方を考え身に付ける | | | | |
| 留意点 | プリントの管理をきちんと行うこと | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | 国家試験の動向に興味を持ち、自宅での学習にも励むこと | | | | |
| 授業内容 | <p>介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護の概念や定義、時代背景から考える介護問題を理解する。 ・介護を必要とする人の生活や生活歴、時代背景をイメージし、その人らしい暮らしや生活の背景を考える。 ・介護を必要とする人が望む生活を送るための自己決定を促す介護福祉について考えることができる。 | | | | |

授業内容

| 日程 | 内 容 | 使用機材等 |
|----|---|--------------|
| 1 | <第1章 介護福祉の基本となる理念> 第1節 介護福祉を取り巻く状況 ① | テキスト プリント |
| 2 | 第1節 介護福祉を取り巻く状況 ② | テキスト プリント |
| 3 | 第2節 介護福祉の歴史 ① | テキスト プリント |
| 4 | 第2節 介護福祉の歴史 ② | テキスト プリント |
| 5 | 中間試験に向けて 時代背景から考える介護の概念の変遷 | テキスト プリント |
| 6 | 時代背景から考える介護の概念の変遷 (1970年代) (1980年代) | テキスト プリント |
| 7 | 時代背景から考える介護の概念の変遷 (1990年代) (2000年以降) | テキスト プリント |
| 8 | 第3節 介護福祉の基本理念 | テキスト プリント |
| 9 | <第2章 介護福祉士の役割と機能> 第1節 社会福祉士及び介護福祉士法 | テキスト プリント |
| 10 | 第2節 介護福祉士の活動の場と役割 | テキスト プリント |
| 11 | 第3節 介護福祉士に求められる役割とその養成 | テキスト プリント |
| 12 | 第4節 介護福祉士を支える団体 | テキスト プリント |
| 13 | <第3章 介護福祉士の倫理> 第1節 介護福祉士の倫理 | テキスト プリント |
| 14 | 第2節 日本介護福祉士会の倫理綱領 ① | テキスト プリント |
| 15 | 前期試験対策 | テキスト プリント |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|--|--------------|
| 16 | 前期試験 | |
| 17 | 試験返却、振り返り | テキスト プリント |
| 18 | 第2節 日本介護福祉士会の倫理綱領 ② | テキスト プリント |
| 19 | <第4章 自立に向けた介護> 第1節 介護福祉における自立支援 ① | テキスト プリント |
| 20 | 第1節 介護福祉における自立支援 ② | テキスト プリント |
| 21 | DVDから考える (地域で生活をする為の生活支援、物的環境、人的環境 への働きかけ) | テキスト プリント |
| 22 | 続き | テキスト プリント |
| 23 | 第2節 ICFの考え方 ① | テキスト プリント |
| 24 | 第2節 ICFの考え方 ② | テキスト プリント |
| 25 | 第3節 自立支援とリハビリテーション ① | テキスト プリント |
| 26 | 第3節 自立支援とリハビリテーション ② | テキスト プリント |
| 27 | 第4節 自立支援と介護予防 ① | テキスト プリント |
| 28 | 第4節 自立支援と介護予防 ② | テキスト プリント |
| 29 | 後期試験対策 | テキスト プリント |
| 30 | 後期試験 | |

授業要項

| | | | | | |
|-------------|--|-----|------|-------|-----------|
| 科 目 | コミュニケーション技術 | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 1年次 |
| | | 教授法 | 講義 | 単位数コマ | 2単位(30コマ) |
| 教 員 | 中島智子 | 領域 | 介護 | 実務経験 | 介護施設 |
| 教科書 | コミュニケーション技術(中央法規出版) | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 成績評価 | 定期試験・授業中の演習への取り組み姿勢・提出物・小テスト・出席状況 | | | | |
| 評価基準 | <ul style="list-style-type: none"> ・前期、後期の定期試験では60%以上の得点を基準とする。 ・単元ごとの小テストは70%以上の得点を基準とする。 ・レポートの内容や演習プリントへの記述により理解できているか確認する。 | | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護現場で必要とされる人間関係形成のための「コミュニケーション技術」を理解することにより、利用者と利用者に関わる人たちの関係調整能力を習得する。 ・さまざまなコミュニケーション障害の内容とコミュニケーション障害がある利用者への対応の仕方を理解する。 ・チームのコミュニケーションの重要性を理解する。 | | | | |
| 留意点 | ・授業でのグループ討議やロールプレイなどに積極的に参加し、発言すること。 | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容を自宅で復習すること。 ・施設実習でのコミュニケーションは積極的に行うこと。 | | | | |
| 授業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の様々な場面で、利用者やその家族との信頼関係形成のためのコミュニケーション技術を学ぶ。 ・利用者の状況、状態、障害の有無に応じたコミュニケーション技術の実践を学ぶ。 ・多職種連携の必要性と留意点を学ぶ。 ・実習の際のコミュニケーションの内容を振り返り、課題を検討する。 | | | | |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|--|-------|
| 1 | 授業ガイダンス 第1章介護におけるコミュニケーションの基本 第1節介護におけるコミュニケーションの意義と目的 | |
| 2 | 第2節介護におけるコミュニケーションの対象 | |
| 3 | 第3節援助関係とコミュニケーション | |
| 4 | 第2章コミュニケーションの基本技術 第1節傾聴・受容・共感・コミュニケーションにおける距離 | |
| 5 | 第2節言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本 | |
| 6 | 第3節目的別のコミュニケーション技術 | |
| 7 | プロセスレコードの書き方 | プリント |
| 8 | 第4節集団におけるコミュニケーション技術 | |
| 9 | 第3章対象者の特性に応じたコミュニケーション 第1節コミュニケーション障害への対応の基本 | |
| 10 | 第1節コミュニケーション障害への対応の基本 | プリント |
| 11 | 第2節さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 | プリント |
| 12 | 第2節さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 | プリント |
| 13 | 第2節さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 | プリント |
| 14 | 前期定期試験 | |
| 15 | 第2節さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 | プリント |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|--|-------|
| 16 | 第2節さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援 | プリント |
| 17 | 第4章 家族とのコミュニケーション 第1節 家族との関係づくり | |
| 18 | 第2節 家族への助言・指導・調整 | |
| 19 | 第3節 家族関係と介護ストレスへの対応 | |
| 20 | 第5章 介護におけるチームのコミュニケーション 第1節 チームのコミュニケーションとは | |
| 21 | 第2節 報告・連絡・相談の技術 | プリント |
| 22 | 第3節 記録の技術 | プリント |
| 23 | 第3節 記録の技術 | プリント |
| 24 | 第4節 会議・議事進行・説明の技術 | |
| 25 | 第4節 会議・議事進行・説明の技術 | |
| 26 | 第5節 事例検討に関する技術 | |
| 27 | 第6節 情報の活用と管理のための技術 | |
| 28 | 模擬会議 | |
| 29 | プレゼンテーションの実際 | |
| 30 | 後期定期試験 | |

<2024年度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|--|-----|-------|-------|-----------|
| 科目 | 生活支援技術 I 基本・食物 | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 1年次 |
| | | 教授法 | 講義・演習 | 単位数コマ | 3単位(50コマ) |
| 教員 | 中居 時子 | 領域 | 介護 | 実務経験 | 介護施設 |
| 教科書 | 「最新・第2版 介護福祉養成講座 生活支援技術 I」(中央法規出版) 「生活支援のための調理実習」(建帛社) | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 成績評価 | 定期試験、出席状況、レポート | | | | |
| 評価基準 | 定期試験60点以上学校評価基準、学則で定める出席状況 | | | | |
| 到達目標 | 人の動きと活動行為、食生活、衣類・寝具の衛生管理等家庭経営・管理の意義等基本的知識及び技術を学び、高齢者や障害のある人の日常生活を支援することができる。 | | | | |
| 留意点 | ・生活の意義を理解し高齢者や障害者の生活に関心を持って学ぶ。 | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | | | | | |
| 授業内容 | 介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 ①生活支援の理解、生活支援と介護過程、生活支援とチームアプローチ ②住環境の整備、住まいの機能と役割、快適な室内環境、住環境における多職種連携 ③自立に向けた移動の介護 移動における福祉用具の活用、良肢位、褥瘡とその対応 ④福祉用具の意義と活用、介護保険と福祉用具 ⑤自立に向けた家事の介護 家庭経営 ⑥応急手当の知識と技術 ⑦災害時における生活支援 | | | | |

授業内容

| 日程 | 内容 | 使用機材等 |
|----|--|-------------------------------------|
| 1 | 授業ガイダンス、授業の特徴と学ぶ姿勢 (身だしなみ) 第1章 第1節 生活支援の基本的な考え方 | 教科書 |
| 2 | 第2節 生活支援と介護過程 第3節 生活支援とチームアプローチ | 教科書 |
| 3 | 第3章 自立に向けた移動の介護 第1節 自立した移動とは 第2節 自立に向けた移動・移乗の介護 (2体位変換の介助 3安楽な姿勢・体位を保持する介助 4褥瘡予防のポイント、安楽な体位を保持、車いすの構造他) | 教科書 |
| 4 | 同上の続き (体位変換の介助の実際) ※実技グループ | 実技 |
| 5 | 第3章 第2節 4体位変換の実際 (1) 上方移動の実際 ①左片麻痺のある方 ②下肢に力がなく腰上げが出来ない利用者の介助 | 実技、実習着 ベッド、スライディングシート |
| 6 | (2) 水平移動 (手前に寄せる) ①左片麻痺で健側下肢が弱い利用者の介助 シートあり、シート無 (3) 仰臥位⇒側臥位の介助 (左片麻痺 右側臥位) | 実技、実習着 教科書、 ベッド、車いす サイドレール |
| 7 | (3) ②左片麻痺で健側下肢の力が弱い利用者の介助 (対面法) ③ " 寝返り動作全般に介助が必要な利用者の介助 (対面法) | 実技 ベッド、スライディングシート |
| 8 | (4) 起き上がりから端座位への介助 ①座位保持ができる左片麻痺の利用者の介助 ②端座位が不安定な左片麻痺がある利用者の介助 | 実技、実習着、 ベッド、 ベッドサイドバー |
| 9 | 4 車いすの各構造と名称他、車いすの取り扱い点検と介助 (P146~150) 5 歩行の為の道具・用具 (P143~145) | 実技、実習着、 ベッド、 ベッドサイドバー |
| 10 | 4 車いすの各構造と名称他、車いすの取り扱い点検と介助 (P146~150) 5 歩行の為の道具・用具 (P143~145) | 実技、実習着、 ベッド、 ベッドサイドバー |
| 11 | (5) 端座位から立位への介助 ①片麻痺のある利用者の介助 | 実技、実習着 ベッド、 ベッドサイドバー |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|--|-----------------------------------|
| 12 | (5) 端座位から立位への介助 ① 片麻痺のある利用者の介助 | ベッド、車いす、スライディングシート等 ベッドサイドバー |
| 13 | 4 車いすで校舎一周の介助に向けての留意点など 5 移動・移乗のための道具・用具 (P169～) 中間試験に向けて 振り返り | 実技、実習着、教科書 ベッド、車いす サイドレール |
| 14 | 4 車いす (1) ベッドから車いすへの移乗介助 ① 左片麻痺のある利用者の介助 | 車いす、消毒用品等 レポート用紙 |
| 15 | 4 車いす (1) ベッドから車いすへの移乗介助 ① 左片麻痺のある利用者の介助 | 実技、実習着、教科書 ベッド、車いす サイドレール |
| 16 | " ② 移乗介助全般にわたり介助が必要は利用者の介助 | 実技、実習着、教科書 ベッド、車いす サイドレール |
| 17 | " ② 移乗介助全般にわたり介助が必要は利用者の介助 | ベッド、車いす |
| 18 | 4 車いす (2) 車いすからベッドへの移乗介助 ① 左麻痺のある利用者 ② 移乗介助全般に介助が必要な利用者 | 実技、実習着、 教科書、ベッド、 車いす、サイドレール |
| 19 | 振り返り ・ ベッド上での移動介助から端座位への介助 ・ 端座位から車いす移乗の介助 | 教科書 (プリント資料) |
| 20 | 移乗介助確認試験 | 確認試験 (実習着) |
| 21 | 3 安楽な姿勢・体位を保持する介助(P124～134) | 教科書 (プリント資料) |
| 22 | 4 歩行の介助の実際(P139～142 段差越え、階段昇降) | 実技、実習着 車いす、消毒用品など レポート用紙 |
| 23 | 床走行型リフト、スライディングボード・シート、 車いすでの段差を上げる・降りる、段差越え、 | 教科書 (プリント資料) |
| 24 | 床走行型リフト、スライディングボード・シート、 車いすでの段差を上げる・降りる、段差越え、 | 教科書 (プリント資料) |
| 25 | 第2章 住環境の整備 第3節 快適な室内環境 第4節 安全に暮らす為の生活環境 | 教科書 (プリント資料) |
| 26 | 第2章 住環境の整備 第3節 快適な室内環境 第4節 安全に暮らす為の生活環境 | 教科書 (プリント資料) |
| 27 | 第4章 福祉用具の意義 第2節 福祉用具の種類 第3節 適切な福祉用具を選ぶための視点 | 教科書 |
| 28 | 第4章 福祉用具の意義 第2節 福祉用具の種類 第3節 適切な福祉用具を選ぶための視点 | 教科書 (プリント資料) |
| 29 | 第5章 自立に向けた家事の介護 第1節 自立した家事とは 第2節 自立に向けた家事の介護 調理 5 大栄養素 | 教科書 (プリント資料) |
| 30 | 前期試験に向けて振り返り 実技 | 教科書 (プリント資料) |
| 31 | 前期試験に向けて振り返り 筆記 | |
| 32 | 前期定期試験 | 実技、実習着、教科書 |
| 33 | 5 大栄養素と主な働き 高齢者の食事に関する身体的変化、消化器官 | 教科書 (プリント資料) |
| 34 | 介護現場での食生活の支援と調理 食品の保存方法と衛生管理 ・ 疾病と栄養 | |
| 35 | 介護現場での食生活の支援と調理 食品の保存方法と衛生管理 ・ 疾病と栄養 | 教科書 (プリント資料) |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|---|----------------------|
| 36 | 第5章 自立に向けた家事の介護 第2節 2洗濯 4裁縫 5衣類の管理 | 教科書 (プリント資料) |
| 37 | 献立の立て方、身支度、手洗い 食材の切り方、自助具・調理実習に向けて | 教科書、副読本 |
| 38 | 調理実習 | 教科書・副読本 エプロン、三角巾 |
| 39 | 調理実習 | 教科書・副読本 エプロン、三角巾 |
| 40 | 第5章 自立に向けた家事の介護 第2節 6買い物 7家庭経営、家計の管理 | 教科書・副読本 エプロン、三角巾 |
| 41 | 献立の立て方、身支度、手洗い 食材の切り方、自助具・調理実習に向けて | 教科書 (プリント資料) |
| 42 | 調理実習 | 副読本、エプロン、 三角巾、自助具 |
| 43 | 調理実習 | 教科書・副読本 エプロン、三角巾 |
| 44 | 7 家庭経営、家計管理、 裁縫 演習 | 教科書、裁縫道具一式 |
| 44 | 裁縫 演習 振り返り筆記 | 教科書、裁縫道具一式 |
| 45 | 第6章 応急手当の知識と技術 第1節 応急手当について 第2節 応急手当に実際 後期定期試験に向けて 振り返り | 教科書 (プリント資料) |
| 46 | ” | 教科書 (プリント資料) |
| 47 | 第7章 災害時における生活支援 | 教科書 (プリント資料) |
| 48 | 第7章 災害時における生活支援 後期試験に向けて振り返り | 教科書 (プリント資料) |
| 49 | 後期試験に向けて | 教科書 |
| 50 | 後期定期試験 | |

<2024年度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|--|-----|------|-------|-----------|
| 科目 | 生活支援技術 II | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 1年次 |
| | | 教授法 | 演習 | 単位数コマ | 5単位(75コマ) |
| 教員 | 岩崎 文明 | 領域 | 介護 | 実務経験 | 介護施設 |
| 教科書 | 「最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術II」第2版 (中央法規) 「最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術I」第2版 (中央法規) | | | | |
| 参考書 | 「実技試験のチェックポイント」(中央法規) | | | | |
| 成績評価 | 定期試験(筆記・実技) 授業、演習態度(身だしなみ、忘れ物、授業への取り組み姿勢) 出席状況 | | | | |
| 評価基準 | 学則に準じる | | | | |
| 到達目標 | 生活支援技術で学ぶ介護技術は単に介助の技法を学ぶだけではなく、根拠に基づいた自立支援の視点で行われることを理解する。 自立に向けた介護技術を習得し、残存機能を活かした生活支援の展開を身につける。 | | | | |
| 留意点 | | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | 介護技術を習得できるよう努力していくこと | | | | |
| 授業内容 | 介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では次の内容を教授する。 ①生活とは何かを理解しその人らしい生活を支援するための基礎的知識・技術を、講義と演習を通して習得する。 ②利用者の状況を観察する力を身につけ、個性を大切に自立支援につながる知識と技術を、講義を演習を通して学ぶ。 | | | | |

授業内容

| 日程 | 内容 | 使用機材等 |
|----|------------------------------|------------|
| 1 | 授業計画説明、実習室の使い方、注意事項 | 教科書 |
| 2 | 休息・睡眠の介護 | 教科書 |
| 3 | ベッドメイキング ① (シーツのたたみ方、三角コーナー) | 教科書 実習着 |
| 4 | ベッドメイキング ② 防水シート | 教科書 実習着 |
| 5 | ベッドメイキング ③ タオルケット・包布 | 教科書 実習着 |
| 6 | ベッドメイキング ⑤ 臥床者がいる場合のシーツ交換 | 教科書 実習着 |
| 7 | ベッドメイキング ⑥ 臥床者がいる場合のシーツ交換 | 教科書 実習着 |
| 8 | 休息・睡眠の介護における多職種との連携 | 教科書 |
| 9 | ベッドメイキング 確認試験 | 教科書 実習着 |
| 10 | 自立に向けた身支度の介護 | 教科書 |
| 11 | 整容における介護技術 | 教科書 実習着 |
| 12 | 自立に向けた、衣服の着脱介助 (前開き) | 教科書 実習着 |
| 13 | 自立に向けた、衣服の着脱介助 (前開き・バスタオル) | 教科書 実習着 |
| 14 | 自立に向けた、衣服の着脱介助 (かぶり) | 教科書 実習着 |
| 15 | 自立に向けた、衣服の着脱介助 (ズボン) | 教科書 実習着 |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|---------------------------------|------------|
| 16 | 自立に向けた食事の介護 | 教科書 |
| 17 | 口腔ケア | 教科書 |
| 18 | 食事介助における介助技術（座位での食事介助） | 教科書 実習着 |
| 19 | 食事介助における介助技術（ベッド上での食事介助） | 教科書 |
| 20 | 着脱介助 確認試験 | 教科書 実習着 |
| 21 | 実習に向けて 復習 | 教科書 実習着 |
| 22 | 自立に向けた食事の介護 多職種連携 | 教科書 |
| 23 | 自立に向けた清潔保持の介護 | 教科書 |
| 24 | 実習の振り返り | 教科書 |
| 25 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 多職種連携 | 教科書 実習着 |
| 26 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 清拭 | 教科書 実習着 |
| 27 | 着脱介助 振り返り | 教科書 実習着 |
| 28 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 ベッド上洗髪 | 教科書 実習着 |
| 29 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 ベッド上洗髪 | 教科書 実習着 |
| 30 | 振り返り学習 | 教科書 |
| 31 | 振り返り事例問題 | 教科書 実習着 |
| 32 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 個浴（ベッドメイキング復習） | 教科書 実習着 |
| 33 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 個浴（ベッドメイキング復習） | 教科書 実習着 |
| 34 | 振り返り事例問題 | 教科書 実習着 |
| 35 | 自立に向けた排泄の介護 | 教科書 |
| 36 | 排泄における介護技術 ベッド上でのおむつ交換 | 教科書 実習着 |
| 37 | 排泄における介護技術 トイレの介助 | 教科書 実習着 |
| 38 | 前期試験（筆記） | |
| 39 | テスト返却 振り返り | 教科書 実習着 |
| 40 | 実習に向けて | 教科書 実習着 |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|------------------------|------------|
| 41 | 実習の振り返り | 教科書 |
| 42 | 排泄における介護技術 ポータブルトイレの介助 | 教科書 実習着 |
| 43 | 排泄における介護技術 差し込み便器・尿器 | 教科書 実習着 |
| 44 | 排泄における介護技術 差し込み便器・尿器 | 教科書 実習着 |
| 45 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 手浴・足浴 | 教科書 実習着 |
| 46 | 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 手浴・足浴 | 教科書 実習着 |
| 47 | ベッド上での衣服の着脱介助 | 教科書 実習着 |
| 48 | ベッド上での衣服の着脱介助 | 教科書 実習着 |
| 49 | 自立に向けた排泄の介護 2 | 教科書 |
| 50 | 自立に向けた排泄の介護 多職種連携 | 教科書 |
| 51 | 人生の最終段階における介護 | 教科書 |
| 52 | 人生の最終段階における介護 | 教科書 |
| 53 | 自立に向けた排泄の介護 確認試験 | 教科書 実習着 |
| 54 | ベッドメイキング 振り返り | 教科書 |
| 55 | 排泄における介護技術 ベッド上でのおむつ交換 | 教科書 実習着 |
| 56 | 着脱介助 振り返り | 教科書 実習着 |
| 57 | 実習に向けて | 教科書 実習着 |
| 58 | ベッド上での衣服の着脱介助 (ゆかた) | 教科書 実習着 |
| 59 | ベッド上での衣服の着脱介助 (ゆかた) | 教科書 実習着 |
| 60 | グループ別 発表準備 | 教科書 実習着 |
| 61 | グループ別 発表準備 | 教科書 実習着 |
| 62 | グループ別 発表準備 | 教科書 実習着 |
| 63 | グループ別 発表準備 | 教科書 実習着 |
| 64 | グループ別 発表準備 | 教科書 実習着 |
| 65 | グループ別 発表準備 | 教科書 実習着 |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|----------------------------|------------|
| 66 | 発表会 | 教科書 実習着 |
| 67 | 後期試験に向けて（筆記） | 教科書 |
| 68 | 排泄介助 振り返り （差し込み便器・尿器） | 教科書 実習着 |
| 69 | 振り返り 事例問題 | 教科書 実習着 |
| 70 | 振り返り 事例問題 | 教科書 実習着 |
| 71 | 排泄における介護技術 ストーマ・オストメイトについて | 教科書 実習着 |
| 72 | 食事介助 振り返り | 教科書 実習着 |
| 73 | 後期試験 （筆記） | |
| 74 | テスト返却 振り返り | 教科書 実習着 |
| 75 | 環境整備 | 教科書 実習着 |

<2024年度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|---|-----|------|-------|-----------|
| 科目 | 介護過程 I | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 1年次 |
| | | 教授法 | 講義 | 単位数コマ | 1単位(15コマ) |
| 教員 | 中居 時子 | 領域 | 介護 | 実務経験 | 介護施設 |
| 教科書 | 最新(改訂版) 介護福祉士養成講座 介護過程 (中央法規出版株式会社) | | | | |
| 参考書 | 介護の基本 I、II (中央法規) コミュニケーション技術(中央法規) | | | | |
| 成績評価 | 定期試験、出席状況、ワークシートの提出物 | | | | |
| 評価基準 | 定期試験60点以上を合格とし詳細は学校の評価基準による、学則で定める出席率による | | | | |
| 到達目標 | 介護過程を行う意義とその進め方を理解し、ICFモデルの活用して介護過程の展開ができる。 | | | | |
| 留意点 | | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | | | | | |
| 授業内容 | 介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ授業を展開する。 | | | | |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|--|-------------|
| 1 | 授業ガイダンス 第1章 第1節 介護過程とは 介護過程を学習するにあたって 第2節 生活支援における介護過程の必要性 | 教科書 資料 |
| 2 | ” 利用者像の変化 介護における「目標」の特徴 | 教科書 資料 |
| 3 | ワーク① 高齢者の方が生きてきた時代、背景を知る | 演習 演習用資料 |
| 4 | ワーク② ” 発表 | 教科書 |
| 5 | 介護職に求められる役割 ①「生活支援」としての介護サービス②介護観の変化 | 教科書 |
| 6 | ③「心身の状況に応じた介護」とは ④尊厳を支える介護に向けて | 教科書 演習 |
| 7 | ⑤見る(観察する)・聞く(聴く)・記録する・推測する・考える(組み立てる) 「食欲がない」の事例から考える | 演習 |
| 8 | 第2章 第1節 本章の目的と構成 第2節 介護過程の展開 第3節 アセスメント(インテーク・情報収集) | 教科書 P20~27 |
| 9 | ” ICFを活用した情報収集の例示 演習 2-1, 2-2 | 教科書 P28~35 |
| 10 | ” ICFを活用した情報収集の例示 演習 2-1, 2-2 | 教科書 演習 |
| 11 | ①介護過程の特徴 ②介護過程の位置づけ ワーク②③ 定期試験に向けて | 教科書 P36~58 |
| 12 | 第4節 アセスメント(解釈・関連付け・統合化) ①情報の解釈・関連付け・統合化、生活課題の明確化とは | 教科書 P36~58 |
| 13 | ②アセスメントの視点 ③アセスメントの実際 | 演習 |
| 14 | 定期試験に向けて振り返り | テキスト |
| 15 | 前期定期試験 | 演習 |

<2024度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|---|-----|------|-------|-----------|
| 科 目 | 介護過程Ⅱ | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 1年次 |
| | | 教授法 | 講義 | 単位数コマ | 3単位(23コマ) |
| 教 員 | 中居 時子 | 領域 | 介護 | 実務経験 | 介護施設 |
| 教科書 | 最新(改訂版) 介護福祉士養成講座 介護過程(中央法規出版株式会社) | | | | |
| 参考書 | 介護の基本Ⅰ、Ⅱ(中央法規) コミュニケーション技術(中央法規) 事例で読み解く介護過程(中央法規) | | | | |
| 成績評価 | 定期試験、出席状況、ワークシートの提出物 | | | | |
| 評価基準 | 定期試験60点以上を合格とし詳細は学校の評価基準による、学則で定める出席率による | | | | |
| 到達目標 | 利用者の状態や状況に応じた介護過程の実際を個別の事例を通して理解し、事例の情報をICFのシートに落とし込み介護過程の展開ができる。 | | | | |
| 留意点 | | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | | | | | |
| 授業内容 | 介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 講義と個人及びグループワーク 介護の基本Ⅰ、Ⅱ(中央法規)、心と体のしくみ、発達と老化の理解、障害の理解などの授業で学んだことを統合して、アセスメントすることができる。 | | | | |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|--|-----------|
| 1 | 第2節「介護過程」展開の実際 事例1 グループホームにおける認知症高齢者の事例 | 演習 |
| 2 | 〃 | 演習 |
| 3 | 事例3 在宅における脳血管疾患のある女性の事例 | 演習 |
| 4 | 〃 | 演習 |
| 5 | 第3章 第1節 介護過程の実践的展開 第2節 「介護過程」展開の実際前に | 演習 |
| 6 | 〃 〃 | 講義 演習 |
| 7 | 事例2のフェイスシートから | 演習 |
| 8 | 〃 アセスメント表に「利用者の生活像」を整理する | 講義 P59~68 |
| 9 | 〃 利用者の生活像からのイメージを描く⇒情報の解釈・関連付け・統合化 | 講義 P |
| 10 | 〃 ⇒予想される生活課題⇒長期目標、短期目標を導き出す | 講義 P69~74 |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|------------------|----------------|
| 11 | 具体的な支援内容と方法、頻度 | 講義 P75～ |
| 12 | 〃 介護計画を立案する 実施評価 | 講義 P82～85 P86～ |
| 13 | 事例「Aさん」の介護過程の展開 | 演習 |
| 14 | 〃 | 演習 |
| 15 | 〃 | 演習 |
| 16 | 〃 | 演習 |
| 17 | 〃 | 演習 |
| 18 | 介護過程の展開 発表準備 | 演習 |
| 19 | 〃 発表 | 発表 |
| 20 | 定期試験に向けて | 問題 |
| 21 | 定期試験 | |
| 22 | 試験返却 解説 | |
| 23 | 定期試験に向けて | |

<2024年度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|---|-----|------|-------|------------|
| 科目 | 介護総合演習 I | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 1年次 |
| | | 教授法 | 演習 | 単位数コマ | 2単位 (30コマ) |
| 教員 | 岩崎 文明 | 領域 | 介護 | 実務経験 | 介護施設 |
| 教科書 | 最新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習(中央法規) | | | | |
| 参考書 | 介護福祉用語辞典(中央法規) ※電子辞書等、必要に応じて用意すること | | | | |
| 成績評価 | ◎ 授業態度及び出席状況 ◎ 提出物 ◎ 実習評価 ◎ (ボランティア参加(3回)) ◎ 実習評価 S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満) | | | | |
| 評価基準 | ◎ 授業態度及び出席状況 ◎ 提出物 ◎ 実習評価 ◎ ボランティア参加(3回) ◎ 実習評価 | | | | |
| 到達目標 | 専門的スキルを授業・実習を通し身に付けることができる | | | | |
| 留意点 | 実習関連書類作成、管理を丁寧に行うこと | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | ◎ 実習前に検便の実施、オリエンテーションに出向く(年2回)※事前オリについては変更も有り得る ◎ 後期実習前にはインフルエンザの予防接種を受ける(年1回) ◎ 研究発表会に向けての文章作成、PP作成は学校にPCがほぼ無い為、自宅での作業もあり得ます | | | | |
| 授業内容 | 介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では次の内容を教授する。 ① 介護実習に向けての心構え、準備を行う ② 自己の実習目標を持ち、実習に挑み、実践を通して課題を明確にすることができる ③ 実習記録についての見直しを行い、誰が見ても理解できる記録が書けるようになる ④ 介護の専門職としての思考や態度を身に付ける ⑤ 実習では施設内のことばかりでなく、地域との連携、関わりを学ぶ | | | | |

授業内容

| 日程 | 内容 | 使用機材等 |
|----|--|-------|
| 1 | オリエンテーション 各期の実習について(本校で示すもの) 実習の心得について(本校で示すもの) 守秘義務について 第1章 介護総合演習で何を学ぶか | |
| 2 | 第2章 介護実習で何を学ぶか(介護実習の意義と目的、介護実習の種類) ※1年次目標: 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する 第4章 実習先の特徴、実習先での学び | |
| 3 | 第3章 介護実習準備、実習中・実習後の学び 実習記録の書き方 ※前期実習希望調査配布 | |
| 4 | 実習関連書類作成(個人票作成、誓約書作成、通学届作成) オリエンテーションの電話の掛け方について | |
| 5 | (実習関連書類返却) オリエンテーション前最終確認、介護技術経験表の作成 | |
| 6 | 第I期前期実習に向けたオリエンテーション | 該当者 |
| 7 | 第I期前期実習に向けたオリエンテーション | 該当者 |
| 8 | 実習前最終確認 実習関連書類配布(記録用紙、概要、出勤簿等) 守秘義務について(事例を基に考える) | |
| 9 | 居宅実習に向けて 第4章 実習先の特徴、実習先での学び(教科書を基に地域との関わりについて学ぶ) ※居宅実習希望調査配布 | |
| 10 | 前期実習: お礼状の作成 | |
| 11 | 第6章実習IIの展開(第2節実習モデル・介護過程を展開する介護実習) 情報収集シートの記入について | |
| 12 | 情報収集シート記入 練習 | |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|---|-------|
| 13 | 情報収集シート記入 練習 | |
| 14 | 実習関連書類作成（個人票作成、誓約書作成、通学届作成） オリエンテーションの電話の掛け方について | |
| 15 | 実習関連書類作成の続き | 全員 |
| 16 | 居宅実習オリエンテーション（本校にて） | |
| 17 | 居宅実習に向けて 実習記録の見直し（第Ⅰ期前期実習のもの） | |
| 18 | 実習前最終確認 実習関連書類配布（記録用紙、出勤簿等） 守秘義務について（事例を基に考える） | |
| 19 | 居宅実習：お礼状の作成 実習の振り返り ※後期実習希望調査配布 | |
| 20 | 実習関連書類作成（個人票作成、誓約書作成、通学届作成） オリエンテーションの電話の掛け方について ※インフルエンザ予防接種締め切り | |
| 21 | （実習関連書類返却） オリエンテーション前最終確認、情報収集シート記入練習 | |
| 22 | 第Ⅰ期後期実習に向けたオリエンテーション | 該当者 |
| 23 | 第Ⅰ期後期実習に向けたオリエンテーション | 該当者 |
| 24 | 実習前最終確認 実習関連書類配布（記録用紙、概要、出勤簿等） 守秘義務について（事例を基に考える） | |
| 25 | 後期実習に向けて 実習記録の見直し（居宅実習のもの） | |
| 26 | 帰校日 | |
| 27 | 帰校日 | |
| 28 | 後期実習：お礼状作成 | |
| 29 | 研究発表会に向けて | |
| 30 | 研究発表会に向けて | |

<2024 度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|--|-----|---------|-------|-----------|
| | はつたつ ろうか りかい 発達と老化の理解 | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 1年次 |
| | | 教授法 | 講義 | 単位数コマ | 4単位(30コマ) |
| 教員 | 畠山 仁美 | 領域 | 心と体のしくみ | 実務経験 | 病院・社協 |
| 教科書 | さいしんだい はん かいご ふくし ようせいとうぎ はつたつ ろうか りかい ちゅうおほうき 最新第2班 介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解(中央法規) | | | | |
| 参考書 | いがく いっぱん しゃ いりようき ちゅうおほうき せいじんかんごく いがく しょいん 医学一般(メヂカルフレンド社) 医療的ケア(中央法規・メヂカルフレンド社) 成人看護学(医学書院) こころ からだ ちゅうおほうき 心と体のしくみ(中央法規・メヂカルフレンド社) おはよう21(中央法規) ふれあいケア(全社協) | | | | |
| 成績評価 | ていき しけん てんじよう しゅつせきぎぎよゐいど ていしゆびつ かねん そうごうひようか 定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価 | | | | |
| 評価基準 | てんじよう S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満) | | | | |
| 到達目標 | にんげん たんじよう せいちゆつたつ かにい ろうか へんか かにい りかい てきせつ かいご ていきよう 人間が誕生し、成長発達する過程と老化していく変化の過程を理解し、適切な介護の提供ができるようにする。 | | | | |
| 留意点 | へんか かんれんせい りかい からだとところの変化の関連性について理解する | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | じしゆげんば こうれいしゃ ふ あ りかい ふか ●実習現場で高齢者と触れ合うことで理解を深める せいかえん こうれいしやしえん こころ からだ かんれん りかい ●「生活支援(高齢者支援)」「心と体のしくみ」と関連して理解する しょう まえ がくしゅうふくしゅう ●小テスト前の学習(復習) | | | | |
| 授業内容 | かいご ふくし びよういぬい きんむ けいけん ふ ほんかもく つぎ きようじゆ 介護福祉士として病院等での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 ①人間の成長と発達についての理論を理解する ②老化による心身の変化を理解する ③加齢変化が日常生活に及ぼす影響を理解する ④加齢とともに起こりやすい疾病について理解する | | | | |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|--|-------|
| 1 | だい しょう にんげん せいちよう はつたつ きそてき ちしき 第1章 人間の成長と発達の基礎的知識 だい せつ せいちよう はつたつ かんが かつ 第1節 成長・発達の考え方 | コウギ講義 |
| 2 | だい せつ せいちよう はつたつ げんそく ほうそく 第2節 成長・発達の原則・法則 | コウギ講義 |
| 3 | だい せつ せいちよう はつたつ えいきよう よういん 第3節 成長・発達に影響する要因 | コウギ講義 |
| 4 | だい しょう にんげん はつたつだんかい はつたつかだい 第2章 人間の発達段階と発達課題 だい せつ ほうたつりろん 第1節 発達理論 | コウギ講義 |
| 5 | だい せつ はつたつだんかい はつたつかだい 第2節 発達段階と発達課題 | コウギ講義 |
| 6 | だい せつ しんたいききのう せいちよう はつたつ 第3節 身体的機能の成長と発達 | コウギ講義 |
| 7 | だい せつ しんりてき きのう はつたつ 第4節 心理的機能の発達 | コウギ講義 |
| 8 | だい せつ しゃかいてききのう はつたつ 第5節 社会的機能の発達① | コウギ講義 |
| 9 | だい せつ しゃかいてききのう はつたつ えんしゅう 第5節 社会的機能の発達②演習1～3 | コウギ講義 |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|---|-----------|
| 10 | だい しょう ろうねんき とくちよう はつたつかだい 第3章 老年期の特徴と発達課題 だい せつ ろうねんき ていぎ 第1節 老年期の定義 | コウギ 講義 |
| 11 | だい せつ ろうか 第2節 老化とは ぎじたいけん 疑似体験 | コウギ 講義 |
| 12 | だい せつ ろうねんき はつたつかだい 第3節 老年期の発達課題 | コウギ 講義 |
| 13 | だい せつ ろうねんき こんにちてきかだい 第4節 老年期をめぐる今日的課題 | コウギ 講義 |
| 14 | ていき しけん 定期試験 | コウギ 講義 |
| 15 | へんきやく テスト返却 だい しょう ろうか ともな へんか せいかつ 第4章 老化に伴うことろとからだの変化と生活 だい せつ ろうか ともな しんたいてき へんか せいかつ えいきよう 第1節 老化に伴う身体的な変化と生活への影響① | コウギ 講義 |
| 16 | 第1節 老化に伴う身体的な変化と生活への影響② 演習 4-1 答え合わせ | コウギ 講義 |
| 17 | だい せつ ろうか ともな しんりてき へんか せいかつ えいきよう 第2節 老化に伴う心理的な変化と生活への影響 | コウギ 講義 |
| 18 | だい せつ ろうか ともな しゃかいてき へんか せいかつ えいきよう 第3節 老化に伴う社会的な変化と生活への影響 | コウギ 講義 |
| 19 | だい しょう こうれいしゃ けんこう 第5章 高齢者と健康 だい せつ けんこう ちようじゆ む けんこう 第1節 健康長寿に向けての健康 | コウギ 講義 |
| 20 | だい せつ こうれいしゃ しょうじよう しかん とくちよう 第2節 高齢者の症状・疾患の特徴 | コウギ 講義 |
| 21 | だい せつ こうれいしゃ おお しかん しょうじよう せいかつじよう りゆうい じこう 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意事項 1 こっかくけい きんけい 骨格系、筋系 2 のう しんけいけい 脳・神経系 | コウギ 講義 |
| 22 | 3 かんかくき けい 感覚器系 4 じゆんかんきけい 循環器系 | コウギ 講義 |
| 23 | 5 こきゆうきけいしろう 呼吸器系 6 しょうじきけい 消化器系 | コウギ 講義 |
| 24 | 7 じん ひにようき けい 腎・泌尿器系 8 ないぶんびつ たいしゃけい 内分泌・代謝系 | コウギ 講義 |
| 25 | 9 は こうくう しかん 歯・口腔疾患 10 あくせいしんせいぶつ 悪性新生物 | コウギ 講義 |
| 26 | 11 かんせんじょう 感染症 12 せいしんしかん 精神疾患 | コウギ 講義 |
| 27 | 13その他 えんしゅう こた あ 演習 5-3 答え合わせ | コウギ 講義 |
| 28 | だい せつ ほけん いりようしよく れんけい しけん せつめい 第4節 保健医療職との連携 試験のポイント説明 | コウギ 講義 |
| 29 | ていき しけん 定期試験 | コウギ 講義 |
| 30 | かえ かいせつ えんしゅう テスト返し・解説 演習 5-4 | コウギ 講義 |

(2024年度)

授業要項

| | | | | | |
|-------|--|-----|---------|-------|------------|
| 科目 | 認知症の理解 I | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 1年次 |
| | | 教授法 | 講義 | 単位数コマ | 2単位 (15コマ) |
| 教員 | 中澤 純一 | 領域 | 心と体のしくみ | 実務経験 | 介護施設 |
| 教科書 | 介護福祉士養成講座13 認知症の理解 中央法規 | | | | |
| 参考書 | ボクはやっと認知症のことがわかった 長谷川和夫著 KADOKAWA 認知症の医療とケア 藤本直規・奥村典子著 クリエイトかもがわ | | | | |
| 成績評価 | シケン 試験65% レポート15% 授業参加度20% | | | | |
| 留意事項 | 講義のほかに、予習復習を繰り返して知識を定着させていきましょう 想像する力を養うために様々な出来事に興味をもってみましょう | | | | |
| 科目の目標 | 認知症の原因疾患及び症状について、実践的に理解する。認知症の人を取り巻く環境を歴史的背景を含め様々なサポートの意味を理解する。また、本人や介護者家族への支援方法を学び実践に繋げる力を身につける。 | | | | |
| 授業概要 | 介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教習する。 認知症の原因疾患及び症状について学んだ上で、それら中核症状が認知症の人いかに生活障害を及ぼしているのかをケアの実践に繋げて考えること。またそこから支援の仕方でのQOLの向上や自立した暮らしへと繋がっていくことができることを学びます。 認知症の人の声を聴こうというキャッチフレーズで終わるのではなく、彼らから発せられた言葉の中にある想いを共感し共有できる専門職になれるように、講義だけではなく、映像演習やグループワークを含めた授業を行います。 認知症の人への様々なサポートや介護者家族への支援について考えます。 | | | | |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|---|-----------------|
| 1 | オリエンテーション 認知症の基礎的理解/認知症とは何か (認知症の人の姿を考える/認知症の定義と診断基準) | テキスト講義・映像 (DVD) |
| 2 | 認知症の基礎的理解/認知症とは何か/脳のしくみ (脳の構造から見た機能と症状の関係・認知症の病理/認知症とそれ以外の間違いやすい病気と症状) | テキスト講義 |
| 3 | 認知症の基礎的理解/認知症の人の心理 (不安と喪失感/うつ病の病態) | テキスト講義・演習 |
| 4 | 認知症の人の心理 (まとめ) | テキスト講義・配付資料 |
| 5 | 認知症の症状・診断・治療・予防/中核症状の理解 (記憶障害/見当識障害) | テキスト講義・配付資料 |
| 6 | 認知症の症状・診断・治療・予防/中核症状の理解 (高次脳機能障害/神経症状) | テキスト・映像・配付資料 |
| 7 | 認知症の症状・診断・治療・予防/生活障害の理解 (生活障害とADLの課題) | テキスト・映像 (PC映像) |
| 8 | 認知症の症状・診断・治療・予防/BPSDの理解 (BPSDの要因と背景について【その1】) | テキスト講義 |
| 9 | 認知症の症状・診断・治療・予防/BPSDの理解 (BPSDの要因と背景について【その2】) | テキスト講義・演習 |
| 10 | 認知症の症状・診断・治療・予防/認知症の診断と重症度 (診断と評価尺度) | テキスト講義 |
| 11 | 認知症の症状・診断・治療・予防/認知症の原因疾患と症状・生活障害 (各認知症の疾患別理解【その1】) | テキスト講義 |
| 12 | 認知症の症状・診断・治療・予防/認知症の原因疾患と症状・生活障害 (各認知症の疾患別理解【その2】) | テキスト講義 |
| 13 | 認知症の基礎疾患・生活障害を映像にて学ぶ | DVD映像演習 |
| 14 | 第2章までのまとめ | 講義・映像 (PC映像) |
| 15 | 定期試験 | |

<2024年度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|---|-----|---------|-------|------------|
| 科目 | しょうがい りかい 障害の理解 I | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 1年次 |
| | | 教授法 | 講義 | 単位数コマ | 2単位 (15コマ) |
| 教員 | 島山 仁美 | 領域 | 心と体のしくみ | 実務経験 | 福祉施設 |
| 教科書 | さいしん だい ほん かいてい ふくし ようせいこうざ しょうがい りかい ちゅうおほうき 最新 第2班 介護福祉士養成講座 14 障害の理解 (中央法規) | | | | |
| 参考書 | いがく いっぱん しゃ ところ からだ ちゅうおほうき かいぼくく せいりがく いがく しょういん 医学一般(メヂカルフレンド社)心と体のしくみ(中央法規・メヂカルフレンド社) 解剖学・生理学(医学書院) | | | | |
| 成績評価 | ていきしけん(60てんいじょう)、しゅつせき・じゆぎょうたいど・ていしゆつづつをかてんしそごうひょうか 定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価 | | | | |
| 評価基準 | てんじょう S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満) | | | | |
| 到達目標 | しょうがい ひと しんり しんたしきのう しゃかいてきそくめん かん きそてき ちしき しゅうどく 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的知識を習得する | | | | |
| 留意点 | ぐたいてき じれい お ま ちゅうぎ 具体的事例を織り交ぜてよりわかりやすいように講義する | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | ●じっしゅう げんば いるようてき けんがく 実習における現場における医療的ケアの見学 ●しょう まえ がくしゅうふくしゅう よしゅう 小テスト前の学習(復讐と予習) | | | | |
| 授業内容 | ①しょうがい きそてき りかい ふか 障害について基礎的理解を深める ②しょうがい しがくてき しんりてき そくめん りかい 障害の医学的・心理的側面を理解する | | | | |

授業内容

| 日程 | 内容 | 使用機材等 |
|----|---|-------------------|
| 1 | だい しょう しょうがい がいねん しょうがいしゃふくし きほん りねん 第1章 障害の概念と障害者福祉の基本理念 だい せつ しょうがい がいろん 第1節 障害の概論 1 しょうがい たら かつた 1 障害の捉え方 2 ICIDHからICFへの変遷 | こうぎ 講義 ワークショップ |
| 2 | しょうがいしゃすう がいすう 3 障害者数の概数 しょうがいしゃ ていぎ しょうがいしゃきほんほう そうごう しえん ほう 4 障害者の定義 (障害者基本法・総合支援法) | こうぎ 講義 |
| 3 | だい せつ しょうがいしゃふくし きほん りねん 第2節 障害者福祉の基本理念 1 ノーマライゼーション 2 リハビリテーション 3 インクルージョン | こうぎ 講義 |
| 4 | 4 エンパワーメント 5 ストレングス こくさい しょうがいしゃねん しょうがいしゃけんり じょうやく 6 国際障害者年 7 障害者権利条約 8 アドボガシー | こうぎ 講義 |
| 5 | だい せつ しょうがいしゃふくし かん せいど 第3節 障害者福祉に関する制度 しょうがいしゃそうごう ふくし ほう 1 障害者総合福祉法 しょうがいしゃさべつ かいしょうほう 2 障害者差別解消法 3 障害者虐待防止法 | こうぎ 講義 |
| 6 | しょうがいしゃ しゅうろうしえん 4 障害者の就労支援 せいねんこうけん せいど 5 成年後見制度 えんしゅう えんしゅう 演習 1-1 演習 1-2 | こうぎ 講義 ワークショップ |
| 7 | だい しょう しょうがいべつ きそてき りかい とくせい おう しえん 第2章 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 I だい せつ しょうがい ひと しんり 第1節 障害のある人の心理 | こうぎ 講義 ワークショップ |
| 8 | だい せつ したい ふじゆう うんどう きのう しょうがい 第2節 肢体不自由 (運動機能障害) | こうぎ 講義 ワークショップ |
| 9 | だい せつ しかく しょうがい 第3節 視覚障害 | こうぎ 講義 ワークショップ |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|---|-----------|
| 10 | だい せつ ちょうかく げんご しょうがい 第4節 聴覚・言語障害 | こうぎ 講義 |
| 11 | だい せつ じゅうふくしょうがい 第5節 重複障害 | こうぎ 講義 |
| 12 | だい せつ ないぶ しょうがい 第6節 内部障害 しんぞう こきゅうき じんぞう 心臓・呼吸器・腎臓 | こうぎ 講義 |
| 13 | だい せつ ないぶ しょうがい 第6節 内部障害 かんきのう 膀胱～肝機能 | こうぎ 講義 |
| 14 | だい せつ じゅうしよばんしん しょうがい 第7節 重症心身障害 | こうぎ 講義 |
| 15 | ていき しけん 定期試験 | |

<2024年度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|---|-----|---------|-------|------------|
| 科目 | ところ からだ 心と体のしくみ I | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 1年次 |
| | | 教授法 | 講義 | 単位数コマ | 2単位 (15コマ) |
| 教員 | はたけやまひとみ 高山 仁美 | 領域 | 心と体のしくみ | 実務経験 | 病院 |
| 教科書 | さいしんだい ばん かいご ふくしし ようせいこうざ 最新第2班 介護福祉士養成講座 11 ところとからだのしくみ (中央法規) | | | | |
| 参考書 | いがく いてばん 医学一般(メヂカルフレンド社) 喀痰吸引・経管栄養研修テキスト(中央法規) | | | | |
| 成績評価 | ていき しけん てんじよう しゅつせきじゆぎよさいど ていしゆつ かてん そうごうひょうか 定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価 | | | | |
| 評価基準 | てんじよう S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満) | | | | |
| 到達目標 | にんげん 人間のからだとところのつながりを知り、健康の有り様を理解する | | | | |
| 留意点 | ずかい かくぞうき とう いち かんけいせい 図解しながら、各臓器等の位置と関係性をよりわかりやすいように講義する | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | じっしゅう げんば いりようてき けんがく ●実習における現場における医療的ケアの見学 しょう まえ がくしゅう ふくしゅう よしゅう ●小テスト前の学習(復讐と予習) | | | | |
| 授業内容 | かんごし びょういん きんむ けいけん ふ ほんかもく つぎ きょうじゆ 看護師として病院での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 ①健康とは何かを考える かいぼうがく せいりがく とお ところ りかい ②解剖学・生理学を通して心のメカニズムを理解する かんじようがくしゅうきおく しこう てきおう りかい ③感情・学習・記憶・思考・適応のしくみを理解する ④からだのしくみと役割を理解する ⑤薬についての知識を身につける | | | | |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|---|---------------|
| 1 | じょしょう けんこう なに 序章「健康」とは何か 1 健康の定義 2 「健康」づくり 3 健康観 4 人はなぜ病気になるのか | 講義 |
| 2 | だい しょう ところのしくみ りかい 第1章 ところのしくみを理解する だい せつ にんげん よつきゅう 第1節 人間の欲求とは 1 基本的欲求 2 社会的欲求 3 自己実現とは | 講義 |
| 3 | だい しょう 第2節 自己実現と尊厳 1 自己概念に影響する要因 2 自立への意欲と自己概念 3 自己実現と尊厳、生きがい 4 国際的な取り組み | 講義 |
| 4 | だい せつ ところのしくみ きそ 第3節 ところのしくみの基礎 1 ところとは何か 2 脳のしくみ | 講義 ワークシヨップ |
| 5 | 3 認知のしくみ 4 学習・記憶・思考のしくみ 5 感情・情動のしくみ | 講義 |
| 6 | 6 意欲・動機づけのしくみ 7 適応のしくみ | 講義 |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|--|--------------------------|
| 7 | <p>第2章 からだのしくみを理解する</p> <p>第1節 1 からだのしくみ</p> <p>1 細胞・遺伝 2 身体各部の名称 3 脳・神経</p> | <p>講義</p> <p>ワークショップ</p> |
| 8 | <p>4 感覚器</p> <p>5 内臓の名称</p> | <p>講義</p> <p>ワークショップ</p> |
| 9 | <p>6 呼吸器</p> <p>7 循環器</p> | <p>講義</p> <p>ワークショップ</p> |
| 10 | <p>8 消化器</p> <p>9 泌尿器</p> | <p>講義</p> |
| 11 | <p>10 骨・筋肉</p> <p>11 骨・関節の働き</p> | <p>講義</p> |
| 12 | <p>12 筋肉の働き</p> <p>13 神経系の働き</p> | <p>講義</p> |
| 13 | <p>14 生殖器・内分泌</p> <p>15 血液・体液・リンパ</p> | <p>講義</p> |
| 14 | <p>2 関連する役割、および薬の知識</p> | <p>講義</p> |
| 15 | <p>定期試験</p> | |

<2024年度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|--|-----|---------|-------|-----------|
| 科目 | ころから 心と体のしくみⅡ | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 1年次 |
| | | 教授法 | 講義 | 単位数コマ | 2単位(15コマ) |
| 教員 | はたけやまひとみ 富山 仁美 | 領域 | 心と体のしくみ | 実務経験 | 医療 |
| 教科書 | さいしん たい ほん かいてい ふくしし ようせいこうざ 最新 第2班 介護福祉士養成講座 11 ころとからだのしくみ(中央法規) | | | | |
| 参考書 | いがく いっぱん しゃ かくだんきゅういんけいかなえいよばんしゅう 医学一般(メヂカルフレンド社) 喀痰吸引・経管栄養研修テキスト(中央法規) | | | | |
| 成績評価 | ていき しけん てんじよう しゅつせきじゆぎやいど ていしゆぶつ かねん そうこうひょうか 定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価 | | | | |
| 評価基準 | てんじよう S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満) | | | | |
| 到達目標 | にちじよきいかせえん しんしん じょうたい りかい 日常生活支援における心身の状態を理解する ・移動・身支度におけるころとからだのしくみを理解する ・介護過程を展開するための情報収集やアセスメントと関連付けができる | | | | |
| 留意点 | ぐたいてき じれい お ま こうぎ 具体的事例を織り交ぜてよりわかりやすいように講義する | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | じしゅう げんば じつぎ とお まな ●実習における現場における実技を通して学ぶ しょう まえ がくしゅう ふくしゅう よしゅう ●小テスト前の学習(復習と予習) | | | | |
| 授業内容 | かんごし びょういあん きんむ けいけん ふ ほんかもく つぎ きょうじゆ 看護師として病院等での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 ①移動・身支度におけるメカニズムを理解する ②心身機能の機能低下が及ぼす影響について理解する ③生活場面における心と体の変化の気づきを理解する ④医療職との連携ポイントを理解する | | | | |

授業内容

| 日程 | 内 容 | 使用機材等 |
|----|---|----------------------|
| 1 | だい しょう いどう かんれん 第3章 移動に関連したころとからだのしくみ だい せつ いどう 第1節 移動のしくみ 1 なぜ移動するのか 2 基本的な姿勢とは | こうぎ 講義 ワークショップ |
| 2 | 3ほでいめかにくす 3 ボディメカニクス | こうぎ 講義 ワークショップ |
| 3 | 4 いどう かんれん 4 移動に関連したころのしくみ 5 いどう かんれん 5 移動に関連したからだのしくみ ① | こうぎ 講義 |
| 4 | 5 いどう かんれん 5 移動に関連したからだのしくみ ② えんしゅう 3-1 あんてい しせい 演習3-1 安定した姿勢 | こうぎ 講義 ワークショップ |
| 5 | だい せつ しんしん きのう ていか いどう およ えいきょう 第2節 心身の機能低下が移動に及ぼす影響 せいしんきのう ていか いどう およ えいきょう 1 精神機能の低下が移動に及ぼす影響 しんたいきのう ていか いどう およ えいきょう 2 身体機能の低下が移動に及ぼす影響 | こうぎ 講義 ワークショップ |
| 6 | だい せつ へんか き 第3節 変化の気づくためのポイント かんさつ いりょうしよく れんけい 1 観察ポイント 2 医療職との連携ポイント きんきゅうたいおう ひつよう れい 3 緊急対応が必要な例 | こうぎ 講義 |
| 7 | だい しょう みじたく かんれん 第4章 身支度に関連したしくみ だい せつ みじたく 第1節 身支度のしくみ ① かお こうせい ほね きんにく ぶい 顔を構成する骨と筋肉と部位 | こうぎ 講義 ワークショップ |
| 8 | みじたく 身支度のしくみ② め みみ はな つめ こうぞう 眼・耳・鼻・爪の構造 | こうぎ 講義 ワークショップ |
| 9 | みじたく 身支度のしくみ③ もうはつ こうくう は した こうしゅう せんがん 毛髪・口腔・歯・舌・口臭・洗顔 | こうぎ 講義 |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|--|---------------|
| 10 | 第2節心身の機能低下が身支度に及ぼす影響 ①の低下が身支度に及ぼす影響 | 講義 ワークショップ |
| 11 | ②身体機能の低下が身支度に及ぼす影響 | 講義 |
| 12 | 演習 | 講義 ワークショップ |
| 13 | 第3節変化の気づきと対応 ①身支度での観察ポイント 1 | 講義 |
| 14 | ①身支度での観察ポイント 2 演習 | 講義 |
| 15 | 定期試験 | |

<2024年度>

| | | | | | |
|-------------|--|-----|-------|-------|-----------|
| 科目 | 医療的ケア I | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 1年次 |
| 教員 | 富士 仁美 | 教授法 | 講義・演習 | 単位数コマ | 2単位(20コマ) |
| 教科書 | 最新 第2班 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア(中央法規) | 領域 | 医療的ケア | 実務経験 | 病院 |
| 参考書 | こころとからだのしくみ(中央法規) 発達と老化の理解(中央法規) 医学一般(メヂカルフレンド社) | | | | |
| 成績評価 | 定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加点し総合評価 | | | | |
| 評価基準 | S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満) | | | | |
| 到達目標 | 個人の尊厳を守り安全な療養生活が維持できるよう、他職種との連携と実践の重要性を学ぶ | | | | |
| 留意点 | 介護職が医療的ケアを実施することになった社会的背景を理解し、重要な責務を知る | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | ●実習における現場における医療的ケアの見学 ●小テスト前の学習(復習と予習) | | | | |
| 授業内容 | 看護師として病院等での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 ①個人の尊厳と自立について理解し「医療倫理」と「介護の倫理」の類似点と相違点を学ぶ ②保健医療制度とチーム医療について理解する ③安全な医療的ケアを実施するためのリスクを理解し、セーフティケアについて考える ④清潔・不潔を理解し感染予防意識を身につける ⑤バイタルチェックと急変時の対応を理解する ⑥救急蘇生法を理解する | | | | |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|--------------------------------------|---------------|
| 1 | 第1章 医療的ケア実施の基礎知識 介護福祉士が医学知識が必要なわけ | 講義 ワークショップ |
| 2 | 第1節 ①医療的ケアとは | 講義 |
| 3 | ②医行為について(医療倫理について) | 講義 演習 |
| 4 | ③喀痰吸引制度(社会福祉士及び介護福祉士法改定) | 講義 |
| 5 | ④医療的ケアと喀痰吸引等の背景 | 講義 |
| 6 | ⑤その他の制度 | 講義 |
| 7 | 第2節 安全な療養生活 ①喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 | 講義 演習 |
| 8 | 演習の実際 | 講義 演習 |
| 9 | 第3節 清潔保持と感染予防 ①感染予防 ②介護職の感染予防 | 講義 |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|---|--------------------|
| 10 | だい せつ せいけつほじ かんせんほほう 第3節 清潔保持と感染予防 りょうようかんきょう せいけつ しょうどくほうほう ③療養環境の清潔、消毒方法 ④消毒と滅菌 | こうぎ 講義 |
| 11 | だい せつ けんこうじょうたい はあく 第4節 健康状態の把握 バイタルチェック、応急手当 おうきゆうてあて | こうぎ 講義 えんしゅう 演習 |
| 12 | かんり リスク管理 (リスクマネージメント) | こうぎ 講義 えんしゅう 演習 |
| 13 | だい しょう かくたん きゅういん きそ てきしき 第2章 喀痰吸引 (基礎的知識) だい せつ こうれいしや かくたん きゅういん せいろん 第1節 高齢者の喀痰吸引概論 こきゅう かくたん きゅういん ①呼吸のしくみ ②喀痰吸引とは P98 | こうぎ 講義 |
| 14 | かくたん きゅういん じっさい かくにん ひつようぶつびんかくにん 喀痰吸引の実際 DVDで確認 必要物品確認 | こうぎ 講義 |
| 15 | だい しょう けいかんえいよう きそてき ちしき 第3章 経管栄養 (基礎的知識) だい せつ がいろん しょうかき けい しょうじょう 第1節 概論 ①消化器系のしくみと症状 | こうぎ 講義 |
| 16 | だい せつ けいかんえいよう ちゅうにゅう ちしき りゆういじこう 第1節 ②経管栄養とは ③注入の知識と留意事項 | こうぎ 講義 |
| 17 | けいかんえいよう しゅるい かくにん ひつようぶつびんかくにん 経管栄養の種類としくみ DVD確認 必要物品確認 | こうぎ 講義 |
| 18 | けいかんえいよう しょう きげん きゅうへん じこ はっせいじ たいおう さいはつぼうし 経管栄養により生じる危険 急変・事故発生時の対応と再発防止 | こうぎ 講義 えんしゅう 演習 |
| 19 | ていきしけん 定期試験 | |
| 20 | へんきやく かいせつ ふ かせ かくたん きゅういん けいかんえいよう テスト返却・解説 振り返り (喀痰吸引・経管栄養) | こうぎ 講義 |

<2024年度>

授 業 要 項

| | | | | | |
|-------------|--|-----|------|-------|------------|
| 科 目 | 文章表現法 | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 1年次 |
| | | 教授法 | 講義 | 単位数コマ | 2単位 (15コマ) |
| 教 員 | 中居 時子 | 領域 | その他 | 実務経験 | 介護施設 |
| 教科書 | 特になし 配布プリントを参考に進めていきます | | | | |
| 参考書 | 「よくわかる介護記録の書き方」(メヂカルフレンド社) 「よくある場面から学ぶ介護記録」(中央法規) 文章検 公式テキスト(日本漢字能力検定協会) | | | | |
| 成績評価 | 出席状況・受講態度・提出物・レポートによる総合評価 | | | | |
| 評価基準 | 2/3以上出席していること。課題の提出期限が守られていること。 | | | | |
| 到達目標 | 記録の意義や目的を理解した上で、適切な記録を書く力を身につける。また、ほかの専門職が書いた記録から必要な情報を読み取り、記録を利用者の生活の質の向上に活かすことができる力をつける。 | | | | |
| 留意点 | 特になし | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | 日常生活や実習で活かせるように努力すること | | | | |
| 授業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・文章表現におけるルールなど、基本的な部分を具体的に学ぶ。 ・日常生活に必要な文章力を身につける。 | | | | |

授 業 内 容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|-----------------|-------|
| 1 | 授業計画説明 「介護記録とは」 | プリント |
| 2 | 記録のルール | プリント |
| 3 | 文章の基礎 ① (語彙) | プリント |
| 4 | 文章の基礎 ② (文法) | プリント |
| 5 | 文章の基礎 ③ (考える力) | プリント |
| 6 | 文章の書き方の基本① | プリント |
| 7 | 文章の書き方の基本② | プリント |
| 8 | 文章の書き方の基本③ | プリント |
| 9 | 記録の書き方の基本と手順 ① | プリント |
| 10 | 記録の書き方の基本と手順 ② | プリント |
| 11 | 実習記録の書き方 | プリント |
| 12 | レポートの書き方 | プリント |
| 13 | ヒヤリハット・事故報告書 | プリント |
| 14 | 実践別の記録の書き方 ① | プリント |
| 15 | 実践別の記録の書き方 ② | プリント |

2024年度

| | | | | | |
|-------------|--|-----|-------|-------|-----------|
| 科 目 | 人間関係論Ⅲ | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 2年次 |
| | | 教授法 | 講義・演習 | 単位数コマ | 2単位(15コマ) |
| 教 員 | 畠山 仁美 | 領域 | 人間と社会 | 実務経験 | 福祉施設 |
| 教科書 | 最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解 (中央法規) | | | | |
| 参考書 | 「はじめてのケアリーダー編」「看護・介護のリーダー編」医歯薬出版株式会社 「身体知と言語」中央法規 「介護管理者・リーダーのための人づくり・組織作りマニュアル」ぱる出版 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価 | | | | |
| 評価基準 | S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満) | | | | |
| 到達目標 | 介護実践におけるマネジメントの基礎を学び、職業人としてどう展開していくのか自分の考えを言語化できる | | | | |
| 留意点 | 介護現場における組織の在り方を理解し、職責毎の仕事の仕方を学ぶ | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | ●実習現場で、チームとしての仕事の仕方や報連相の在り方を学ぶ ●小テスト前の学習(復習と予習) | | | | |
| 授業内容 | 介護福祉士として介護施設等での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 ①介護実践におけるチームマネジメント意義を理解する ②ケア展開するためのチーム取組やケア展開するするためのマネジメントについて理解する ③介護職としてのキャリアデザインが描けるようにすると共に、必要な自己研鑽の必要性を理解する ④介護サービスを支える組織の構造や機能とその役割を理解し、運営管理について考える | | | | |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|--|---------------|
| 1 | シラバスの説明 グループワークの仕方についての講義と演習(フィッシュボーン) 課題:自分が思うリーダー像について原稿用紙に書いて提出 | 講義 ワークショップ |
| 2 | 第3章介護実践におけるチームマネジメント 第1節 介護実践におけるチームマネジメントの意義 1 ヒューマンサービスとしての介護サービス 演習3-1 | 講義 ワークショップ |
| 3 | 2 介護現場に求められるチームマネジメント | 講義 |
| 4 | 3 介護実践におけるチームマネジメントの取り組み 演習3-2 | 講義 ワークショップ |
| 5 | 第2節 ケアを展開するためのチームマネジメント 1 ケアを展開するために必要なチームとその取組 | 講義 |
| 6 | 2 チームケアを展開するためのマネジメント 演習3-3 | 講義 ワークショップ |
| 7 | 3 チームの力を最大化するためのマネジメント 演習3-4 | 講義 ワークショップ |
| 8 | 第3章 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント 1 介護福祉職のキャリアと求められる実践力 | 講義 |
| 9 | 2 介護福祉職としてのキャリアデザイン 演習3-5 | 講義 ワークショップ |
| 10 | 3 介護福祉職のキャリア支援・開発 演習3-6 | 講義 ワークショップ |
| 11 | 4 自己研鑽に必要な姿勢 | 講義 |
| 12 | 第4節 組織の目標達成のためのチームマネジメント 1 介護サービスを支える組織の構造 | 講義 |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|---|---------------|
| 13 | 2 介護サービスを支える組織の機能と役割 演習3-7 | 講義 ワークショップ |
| 14 | 3 介護サービスを支える組織の管理 演習3-8 テスト範囲説明 課題：自分が思うリーダー像（講義を終えて） | 講義 ワークショップ |
| 15 | 定期試験 | |

2024年度

| | | | | | |
|-------------|--|-----|-------|-------|-----------|
| 科 目 | 介護保険と障害者支援 | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 2年次 |
| | | 教授法 | 講義・演習 | 単位数コマ | 2単位(15コマ) |
| 教 員 | 畠山 仁美 | 領域 | 人間と社会 | 実務経験 | 福祉施設 |
| 教科書 | 最新 介護福祉士養成講座2 第2版 社会の理解(中央法規) | | | | |
| 参考書 | 介護保険改正最新版 障害者総合支援法(厚生労働省資料) 介護福祉士実務者研修テキスト1巻「人間と社会」中央法規 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価 | | | | |
| 評価基準 | S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満) | | | | |
| 到達目標 | 高齢者福祉と介護保険制度の成り立ちを理解し、介護現場の運営に関連づけて考えられるようになる 障害者福祉と障害者総合支援法について理解する その他諸制度についても理解し、活用できるようにする | | | | |
| 留意点 | 介護現場の有り様と関連づけて理解する | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | ●小テスト前の学習(復讐と予習) | | | | |
| 授業内容 | 介護福祉士として介護施設等での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 ①高齢者保健福祉の動向を歴史的背景も含め理解する ②障害者保健福祉と障害者総合支援制度の動向と制度の在り方について理解する ③介護実践に関連する諸制度(個人の権利を守る制度・保健医療制度・貧困と生活困窮に関する制度・地域生活支援制度) | | | | |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|---|-----------|
| 1 | シラバス説明 第4章 高齢者保健福祉と介護保険制度 第1節 高齢者保健福祉の動向 | 講義 |
| 2 | 第2節 高齢者保健福祉に関連する法体系 | 講義 |
| 3 | 第3節 介護保険制度 1～3 | 講義 |
| 4 | 第3節 介護保険制度 4～5 演習4-1 演習4-2 | 講義 ワーク |
| 5 | 第5章 障害者保健福祉と障害者総合支援制度 第1節 障害者保健福祉の動向 第2節 障害者の定義 | 講義 |
| 6 | 第3節 障害者保健福祉に関する制度 | 講義 |
| 7 | 第4節 障害者総合支援制度 1～5 | 講義 |
| 8 | 第4節 障害者総合支援制度 6～9 | 講義 |
| 9 | 第4節 障害者総合支援制度 演習5-1 5-2 | 講義 ワーク |
| 10 | 第6章 介護実践に関連する諸制度 第1節 個人の権利を守る制度 | 講義 |
| 11 | 第2節 保健医療に関する制度 | 講義 ワーク |
| 12 | 第3節 貧困と生活困窮に関する制度 | 講義 ワーク |
| 13 | 第4節 地域生活を支援する制度 演習6-1 6-2 | 講義 ワーク |
| 14 | 定期試験 | |
| 15 | 試験返却・回答説明 自分が思うリーダー論(学習してどう変化したか)レポート提出 | 講義 |

2024年度

| | | | | | | |
|-------------|----------------------------------|--|-----|-------|-------|-----------|
| 科目 | アクティビティ・ケア (アクティビティ／音楽療法) | | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 2年次 |
| | | | 教授法 | 講義・演習 | 単位数コマ | 2単位(15コマ) |
| 教員 | はたけやまひとみ むろかわ ゆうこ 畠山 仁美・室川 裕子 | | 領域 | 人間と社会 | 実務経験 | 福祉施設 |
| 教科書 | アクティビティ | アクティビティ・サービス ※授業ではプリントを配布 | | | | |
| | 音楽療法 | はじめよう音楽リハビリテーション | | | | |
| 参考書 | アクティビティ | ちゅうおんきょく しゅつばん しんてい 中央法規出版 新訂「アクティビティサービス」 | | | | |
| | 音楽療法 | レジメ使用 | | | | |
| 成績評価 | アクティビティ | しゅつせきようきょう ていしゅつ こうぎ えんしゅう と く しせい ◎出席状況 ◎提出レポート 講義・演習の取り組み姿勢 ※定期試験アクティビティ・ケア(30点)音楽療法(70点) | | | | |
| | 音楽療法 | 筆記試験 | | | | |
| 評価基準 | アクティビティ | てんじょう S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満) | | | | |
| | 音楽療法 | 音楽が人に与える影響の理解とその有効性を知る。70から80% | | | | |
| 到達目標 | アクティビティ | ◎アクティビティ・ケアについて理解し、利用者の心身・生活の活性化を考えられる ◎ICFにおける活動・参加とアクティビティ・サービスについて理解できる ◎アクティビティ・サービスを考案できる | | | | |
| | 音楽療法 | 授業内容に準ずる | | | | |
| 留意点 | アクティビティ | アクティビティ・サービスとしてレク活動や音楽療法を結び付けて考えられる | | | | |
| | 音楽療法 | 学生が自ら声を出し行動し仲間と協力すること | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | アクティビティ | じっしゅう たいけん とお ひと にちじょう かいてき かんが 実習での体験を通して、人それぞれの日常の「快適」を考案することができる | | | | |
| | 音楽療法 | | | | | |
| 授業内容 | アクティビティ | かいご ふくし じふく せつ せつ きんむ けいけん ふ ほんかもく つぎ きょうじゆ 介護福祉士として福祉施設での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 ◎ その人らしく生きること、より快適な生活を営むことへの積極的な支援のあり方を理解する ◎ アクティビティ・サービスの考え方「生活上の快適」を具体化する支援を考える | | | | |
| | 音楽療法 | 音楽療法を学ぶことは音楽を用いて種々の刺激と感動を与えてアクティビティを高めて行く活動となることであり、音楽がアクティビティケアとして心身に刺激を与える方法であることを知り、対象者支援としての在り方を学ぶ。 | | | | |

授業内容 (アクティビティ)

| 日程 | 内 容 | 使用機材等 |
|----|-------------------------------|------------|
| 1 | アクティビティ・サービスとは何か | 講義・プリント |
| 2 | ICFの活動・参加とアクティビティ・サービス (事例から) | 講義・演習・プリント |
| 3 | アクティビティ・サービスを組み立てる | 講義・演習 |

授業内容（音楽療法）

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|------------------------------|---------------|
| 1 | 音と音楽／音楽療法の考え方を基に対象者支援の在り方を学ぶ | DVD音楽の力、キーボード |
| 2 | 人と向き合う音楽 | |
| 3 | 音楽とリハビリテーション | |
| 4 | 音楽を知り音楽療法の目的方法、働き | 楽器 |
| 5 | 音楽とリハビリテーション | |
| 6 | 高齢者の音楽療法（プログラム、楽器を知る） | |
| 7 | 施設で使える歌詞表、リズム譜作成 | |
| 8 | プログラムを作成 グループに分かれて発表 | |
| 9 | 様々な障がいを持つ人と向き合う音楽 | |
| 10 | 演習 試験について | |
| 11 | 試験 | |
| 12 | 音楽とリハビリテーションのまとめ | |
| | ※使用機材などはその都度用意 | |
| | ※授業日程の内容にズレが生じることがあるかもしれません | |

<2024年度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|---|-----|-------|-------|-----------|
| 科目 | 健康論 | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 2年次 |
| 教員 | 岩崎 文明 | 教授法 | 講義/演習 | 単位数コマ | 2単位(15コマ) |
| 教科書 | 健康論 ※授業ではプリントを配布します | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 成績評価 | ◎定期試験60点以上 ◎ 出席状況 ◎ 提出物・レポート ◎ 講義・演習取り組み姿勢 | | | | |
| 評価基準 | S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満) | | | | |
| 到達目標 | 様々な観点から健康について考えることができる。 | | | | |
| 留意点 | 運動指導する際のリスクを考えましょう | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | ・介護予防運動指導員養成講座の授業と関連付けを行う | | | | |
| 授業内容 | 介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 ・高齢者の健康について考える ・実習中に高齢者の方と体操や運動を通し、交流を行う | | | | |

授業内容

| 日程 | 内容 | 使用機材等 |
|----|-----------------------|----------|
| 1 | 私たちの健康のすがた 健康のとらえ方 | プリント |
| 2 | 健康と意志決定・行動選択 | プリント |
| 3 | 健康に関する環境づくりについて考える | プリント |
| 4 | 喫煙と健康、飲酒と健康について考える | プリント |
| 5 | 薬物乱用と健康について考える | プリント |
| 6 | 健康体操について考える | プリント |
| 7 | 健康運動について考える | プリント |
| 8 | リハーサル（実技室） | プリント 実技室 |
| 9 | リハーサル（実技室） | プリント 実技室 |
| 10 | ①グループ発表（実技室） | 実技室 実習着 |
| 11 | ②グループ発表（実技室） | 実技室 実習着 |
| 12 | ③グループ発表（実技室） | 実技室 実習着 |
| 13 | ④グループ発表（実技室） | 実技室 実習着 |
| 14 | 後期試験に向けて | プリント |
| 15 | 後期試験 | |

<2024年度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|--|-----|-------|-------|-----------|
| 科目 | 初級障がい者スポーツ | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 2年次 |
| | | 教授法 | 講義・実技 | 単位数コマ | 1単位(10コマ) |
| 教員 | 岩崎 文明 | 領域 | 人間と社会 | 実務経験 | 介護施設 |
| 教科書 | 障害のある人のスポーツ教本(初級・中級) 2020年改正カリキュラム対応 | | | | |
| 参考書 | 全国障害者スポーツ大会競技規則集 | | | | |
| 成績評価 | 出席状況、授業態度 | | | | |
| 評価基準 | 学則に準じる | | | | |
| 到達目標 | パラスポーツの意義と理念を理解し、ボランティア活動が積極的にできる | | | | |
| 留意点 | 特になし | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | 地域における様々なボランティア活動への参加 | | | | |
| 授業内容 | 介護福祉士として福祉施設等での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 ①パラスポーツにはどのようなものがあるのか学び、理解を深める ②パラスポーツ指導の意義と理念を理解する。 | | | | |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|--------------------------|------------------------|
| 1 | 障がい者スポーツの意義と理念 | プリント PP |
| 2 | スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質 | プリント PP |
| 3 | 障がい者スポーツ推進の取り組み | プリント PP |
| 4 | 障がい者スポーツ大会の概要 | プリント PP |
| 5 | 安全管理 | プリント PP |
| 6 | 障がいのある人との交流 1 | サンアップル (土日のいずれかを使用) |
| 7 | 障がいのある人との交流 2 | プリント PP |
| 8 | 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫 | サンアップル |
| 9 | 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫 | プリント PP |
| 10 | 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫 振り返り | プリント PP |

<2024年度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|--|-----|------|-------|-----------|
| 科 目 | 介護の基本Ⅱ | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 2年次 |
| | | 教授法 | 講義 | 単位数コマ | 2単位(18コマ) |
| 教 員 | 中居 時子 | 領域 | 介護 | 実務経験 | 介護施設 |
| 教科書 | 最新 介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ 第2版 (中央法規) | | | | |
| 参考書 | 介護福祉士養成テキスト「介護の基本Ⅱ」(建帛社) | | | | |
| 成績評価 | 定期試験60点以上 提出物・レポート 出席状況 | | | | |
| 評価基準 | 学則に準ずる | | | | |
| 到達目標 | ①介護福祉の基本理念や、地域を基盤とした生活の継続性と介護を必要とする人の生活を支えるしくみを理解する。②介護福祉の専門職としての能力と態度を身に付ける。 | | | | |
| 留意点 | 特になし | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | 実習を通して他職種の機能と役割の理解を深め、どのように連携しているか学ぶ。 | | | | |
| 授業内容 | 介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 施設実習での経験を踏まえ、本科目では介護を必要とする人の理解を深め、人間の多様性及び高齢者の暮らしの実際や、障害がある人への理解を深める。介護における安全を確保するための知識・技術・事故防止や安全の対策、感染対策、介護従事者の健康管理について理解する。 | | | | |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|-----------------------------|-------|
| 1 | 授業説明 私たちの生活の理解 | 教科書 |
| 2 | 介護福祉を必要とする人たちの暮らし | 教科書 |
| 3 | 介護福祉を必要とする人たちの暮らし (時代背景の理解) | 教科書 |
| 4 | 「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解 | 教科書 |
| 5 | 生活を支えるフォーマルサービス | 教科書 |
| 6 | 生活を支えるインフォーマルサービス・地域連携 | 教科書 |
| 7 | 介護における安全の確保 | 教科書 |
| 8 | リスクマネジメントとは何か | 教科書 |
| 9 | 生活の場の安全管理 | 教科書 |
| 10 | 感染症対策 | 教科書 |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|-------------------|-------|
| 11 | 多職種連携・協働の必要性 | 教科書 |
| 12 | 保健・医療・福祉職の役割と機能 1 | 教科書 |
| 13 | 保健・医療・福祉職の役割と機能 2 | 教科書 |
| 14 | 健康管理の意義と目的 | 教科書 |
| 15 | こころの健康管理 | 教科書 |
| 16 | 身体の健康管理 | 教科書 |
| 17 | 前期試験 | |
| 18 | 労働環境の整備 | 教科書 |

<2024年度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|--|-----|-------|-------|-----------|
| 科目 | セルフケアマネジメント | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 2年次 |
| | | 教授法 | 講義・実技 | 単位数コマ | 2単位(15コマ) |
| 教員 | 岩崎 文明 | 領域 | 介護 | 実務経験 | 介護施設 |
| 教科書 | ・キネステイクスベーシックコーステキスト | | | | |
| 参考書 | | | | | |
| 成績評価 | 本科目は、出席とテストによって評価する。また、授業を3分の1以上欠席した者は、テストを受けることができない。 | | | | |
| 評価基準 | 具体的な評価基準は、下記に定める通りとする。 ※60点未満は再履修とする。 S:90 以上(秀) A:89-80点(優) B:70-79点(良) C:60-69点(可) D:60点未満(不可) | | | | |
| 到達目標 | 日常・仕事・教育的活動において、私たち自身が行うまたは他者を介助するときの動きの問題点を理解し、介護者の腰痛予防としていく | | | | |
| 留意点 | | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | ◎ 実習室で行う場合は実習着を着用すること | | | | |
| 授業内容 | 介護福祉士として介護施設等での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 基礎的な知識を身に付け、自身における健康管理に役立てる。 | | | | |

授業内容

| 日程 | 内容 | 使用機材等 |
|----|--|-------------------|
| 1 | オリエンテーション | |
| 2 | 介護における腰痛予防について | 配布プリント |
| 3 | 自分の動きの経験からなる前提となることや期待すること 概念システムの紹介 学習サイクルの紹介 | 指定テキスト 実習室 実習着 |
| 4 | インタラクションの学習サイクル | 指定テキスト 実習室 実習着 |
| 5 | 機能解剖の学習サイクル(骨と筋肉) | 指定テキスト 実習室 実習着 |
| 6 | 機能解剖の学習サイクル(マスとスペース) | 指定テキスト 実習室 実習着 |
| 7 | 機能解剖の学習サイクル(身体のオリエンテーション) | 指定テキスト 実習室 実習着 |
| 8 | 人の動き(整える動きと運ぶ動き) | 指定テキスト 実習室 実習着 |
| 9 | 人の動き(パラレル/スパイルな動きのパターン) | 指定テキスト 実習室 実習着 |
| 10 | 力(押しと引き) | 指定テキスト 実習室 実習着 |
| 11 | 人の機能(体位/基本体位) | 指定テキスト 実習室 実習着 |
| 12 | 人の機能(移動・その場の動き) | 指定テキスト 実習室 実習着 |
| 13 | 環境(ヒューマンファクタリング) | 指定テキスト 実習室 実習着 |
| 14 | 期末試験 | |
| 15 | 試験解説、まとめ | |

<2024年度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|--|-----|-------|-------|-----------|
| 科目 | 介護予防と生活リハビリ | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 2年次 |
| | | 教授法 | 講義/演習 | 単位数コマ | 2単位(30コマ) |
| 教員 | 岩崎 文明 | 領域 | 介護 | 実務経験 | 介護施設 |
| 教科書 | 介護予防運動指導員 養成講座テキスト(東京都健康長寿医療センター) | | | | |
| 参考書 | プリントを配布します(ファイルを用意してください) | | | | |
| 成績評価 | ◎ 定期試験60点以上 ◎ 全講義・演習を修了し、前・後期の試験に合格すること ◎ 講座を全出席すること | | | | |
| 評価基準 | 最終日に行われる60分の修了試験に合格した者が「介護予防運動指導員」として認定される 定期試験:S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満) | | | | |
| 到達目標 | おたっしや21を実施し、様々なプログラムを実施できる | | | | |
| 留意点 | マシンを使用する際には、使用上の注意点を厳守し、危険な取り扱いをしないこと | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | ◎ 毎回の授業の前に、必ず次行う章を一読しておくこと ◎ 実習室で行う場合は実習着を着用すること | | | | |
| 授業内容 | 介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 高齢者一人ひとりの身体機能を十分に活かした筋力向上トレーニング・転倒予防・低栄養予防・口腔機能向上などの指導を行い、高齢者が自立した生活習慣を確立し、いつまでも健康で豊かな人生を送れるよう支援できるように学ぶ | | | | |

授業内容

| 日程 | 内 容 | 使用機材等 |
|----|--|-------------------|
| 1 | 老年学・介護予防概論 | 指定テキスト |
| 2 | 地域づくりによる介護予防論・高齢者の社会参加と介護予防 | 指定テキスト |
| 3 | 介護予防・日常生活支援総合事業と介護予防コーディネーション フレイル・サルコペニア予防特論 | 指定テキスト |
| 4 | 老年病学特論 | 指定テキスト |
| 5 | 介護予防統計学 | 指定テキスト |
| 6 | 行動科学特論 | 指定テキスト |
| 7 | 介護予防評価学特論 | 指定テキスト |
| 8 | 介護予防評価学実習 ①グループ | 指定テキスト 実習室 実習着 |
| 9 | 認知症予防特論 | 指定テキスト |
| 10 | 認知症予防実習 | 指定テキスト |
| 11 | 転倒予防特論 | 指定テキスト 実習室 実習着 |
| 12 | 転倒予防実習 | 指定テキスト |
| 13 | 尿失禁予防特論 | 指定テキスト 実習室 実習着 |
| 14 | 尿失禁予防実習 | 指定テキスト |
| 15 | 口腔機能向上特論 | 指定テキスト |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|---------------------------|---------------------------|
| 16 | 口腔機能向上実習 | 指定テキスト |
| 17 | リスクマネジメント うつ・孤立・閉じこもり予防特論 | 指定テキスト |
| 18 | 高齢者筋力向上トレーニング特論 | 指定テキスト |
| 19 | 前期試験対策 | 指定テキスト 実習室 実習着 |
| 20 | 前期試験 | |
| 21 | 試験返却 | 指定テキスト |
| 22 | 実習 ①グループ | 指定テキスト 実習室 実習着 |
| 23 | 実習 ①グループ | 指定テキスト 実習室 実習着 |
| 24 | 実習 ①グループ | 指定テキスト 実習室 実習着 |
| 25 | 実習 ①グループ | 指定テキスト 実習室 実習着 |
| 26 | 高齢者栄養改善活動特論 | 指定テキスト 実習室 実習着 |
| 27 | 後期試験対策 | 指定テキスト 実習室 実習着 |
| 28 | 後期試験 | 指定テキスト 実習室 実習着 |
| 29 | 修了試験対策 | 指定テキスト |
| 30 | 修了試験 | 東京都健康長寿医療センター 指定修了試験問題 |

<2024年度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|---|-----|-------|-------|-----------|
| 科目 | 生活支援技術Ⅲ（障害者支援） | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 2年次 |
| | | 教授法 | 講義・演習 | 単位数コマ | 2単位(30コマ) |
| 教員 | 中居 時子 | 領域 | 介護 | 実務経験 | 介護施設 |
| 教科書 | 最新(改訂版) 介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅲ(中央法規出版株式会社) | | | | |
| 参考書 | 心と体の仕組み、障害の理解、認知症の理解 | | | | |
| 成績評価 | 定期試験、出席状況 | | | | |
| 評価基準 | 定期試験60点以上を合格とし詳細は学校の評価基準による。学則に定める出席基準とする。 | | | | |
| 到達目標 | 障害の特性と介護を必要とする人の状態を把握し、その人らしく生活できるように支援する力を身につける。 | | | | |
| 留意点 | | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | | | | | |
| 授業内容 | 介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 1、利用者の状態、状況に応じた生活支援技術とは 2、障害に応じた生活支援技術Ⅰ(視覚障害、聴覚障害、言語障害、重複障害、運動機能障害、内部障害) 3、障害に応じた生活支援技術Ⅱ(知的障害、精神障害、高次機能障害、発達障害、重症心身障害) 4、認知症の人に応じた生活支援技術 | | | | |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|---|--------|
| 1 | 授業ガイダンス 利用者の状態、状況に応じた生活支援技術とは 第2章 第1節 肢体不自由に応じた介護 | 教科書 |
| 2 | 第2章 第1節 肢体不自由に応じた介護 | 教科書 |
| 3 | 第2節 視覚障害に応じた介護 ①視覚障害の理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開 食事の支援 移動の支援の演習 | 教科書 |
| 4 | 第3節 聴覚・言語障害に応じた介護 ①聴覚障害の理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開 ⑤言語障害の理解 | 教科書 |
| 5 | 重複障害(盲ろう)に応じた介護 ①盲ろう者と生活の理解②生活支援と環境整備 | 教科書 |
| 6 | 第5節 心臓機能障害に応じた介護 ①心臓機能障害の理解 ②生活上の困りごと | 教科書 |
| 7 | 〃 支援の展開 | 教科書 演習 |
| 8 | 第6節 呼吸器機能障害に応じた介護 ①呼吸器機能障害の理解 ②生活上の困りごと | 教科書 |
| 9 | 第6節 呼吸器機能障害に応じた介護 ①呼吸器機能障害の理解 ②生活上の困りごと | 教科書 |
| 10 | 〃 支援の展開 | 教科書 |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|---|--------------|
| 11 | 第7節 腎臓機能障害に応じた介護 ①腎臓機能障害の理解 | 教科書 |
| 12 | ②生活上の困りごと ③支援の展開 | 教科書 |
| 13 | 第8節 膀胱・直腸機能障害に応じた介護 ①膀胱・直腸機能障害の理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開 | 教科書 |
| 14 | 第9節 小腸機能障害に応じた介護 ①小腸機能障害の理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開 | 教科書 |
| 15 | 第10節 HIVによる免疫機能障害に応じる介護 ①HIV感染の理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開 | 教科書 |
| 16 | 第11節 肝臓機能障害に応じた介護 ①肝臓機能障害の理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開 | 教科書 |
| 17 | 定期試験に向けて | テキストP158～169 |
| 18 | 定期試験 | 演習 教科書 |
| 19 | 第3章 障害に応じた生活支援技術Ⅱ 第1節 知的障害に応じた介護 ①知的障害の理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開 | 教科書 |
| 20 | 第2節 ①統合失調の理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開 | 教科書 |
| 21 | ⑤気分障害の理解 ⑥生活上の困りごと ⑦支援の展開 | 教科書 |
| 22 | 第3節 高次脳機能障害に応じた介護 ①高次脳機能障害の理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開 | 教科書 |
| 23 | 第4節 発達障害に応じた介護 ①発達障害の理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開 | 教科書 |
| 24 | 第5節 筋萎縮性側索硬化症に応じた介護 ①筋萎縮性側索硬化症の理解②生活上の困りごと③支援の展開 | 教科書 |
| 25 | 第6節 パーキンソン病に応じた介護 ①パーキンソン病の理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開 | 教科書 |
| 26 | 第7節 悪性関節リウマチに応じた介護 ①悪性関節リウマチの理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開 | 教科書 |
| 27 | 第8節 筋ジストロフィーに応じた介護 ①筋ジストロフィーの理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開 | 教科書 |
| 28 | 演習3-1から3-5 まとめ | 教科書 |
| 29 | ” 定期試験に向けて | |
| 30 | 定期試験 | |

<2024年度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|---|-----|------|-------|------------|
| 科 目 | 介護過程Ⅲ | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 2年次 |
| | | 教授法 | 講義 | 単位数コマ | 3単位 (23コマ) |
| 教 員 | 島山 仁美 | 領域 | 介護 | 実務経験 | 福祉・社協 |
| 教科書 | 最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程(中央法規) | | | | |
| 参考書 | 介護過程の展開(日本介護福祉士会)、介護過程の展開(メヂカルフレンド社・建帛社)介護技術講座(日介協) | | | | |
| 成績評価 | 定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価 | | | | |
| 評価基準 | S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満) | | | | |
| 到達目標 | 根拠に基づいた介護を提供するための「介護過程」を発展させ、実践的に展開する | | | | |
| 留意点 | 個別ケアの意義と実践の関連性を理解する | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | ●実習における介護過程の展開を実践 ●小テスト前の学習(復讐) | | | | |
| 授業内容 | 介護福祉士として介護施設等での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 ①多様な事例からアセスメント～評価までの思考過程を疑似体験する ②事例を丁寧に読み込むことによって思考過程のトレーニングを行い、目標設定ができるようにする ③利用者の状態とプラン設定の関連性を理解し、個別ケアの実践が展開できるようにする。 ④事例を通じて、プラン設定と介護技術提供の実践ができる | | | | |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|---|---------------|
| 1 | 1年生での介護過程の展開について総まとめ | 講義 |
| 2 | 第4章 介護過程とケアマネジメント 1 ケアマネジメントの全体像 | 講義 |
| 3 | 2 ケアプランと個別援助計画のい関係性 | 講義 |
| 4 | 3 チームとして介護過程を展開する意義 4 ケアカンファレンスの意義 演習 4-1 | 講義・演習 |
| 5 | 第2節 チームアプローチにおける介護福祉士の役割 チームアプローチの意義 | 1 講義 |
| 6 | 2 チームアプローチの実際 | 講義 |
| 7 | 実習を終えて各自が行った目標設定について検討 グループワーク① | 講義 ワークショップ |
| 8 | グループワークを通してわかったことを発表 | 講義 ワークショップ |
| 9 | 介護過程と介護実践との関係性 | 講義 |
| 10 | 事例から各種介護実践について考える(1) | 講義 |
| 11 | 演習内容をグループに分かれて考えシナリオ作りと実技練習① | 講義 ワークショップ |
| 12 | 演習内容をグループに分かれて考えシナリオ作りと実技練習② | 講義 ワークショップ |
| 13 | 演習内容をグループに分かれて考えシナリオ作りと実技練習③ | 講義 ワークショップ |
| 14 | 課題発表 | 講義 ワークショップ |
| 15 | 課題発表 | 講義 ワークショップ |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|------------------------------|---------------|
| 16 | 事例から各種介護実践について考える（1） | 講義 |
| 17 | 演習内容をグループに分かれて考えシナリオ作りと実技練習① | 講義 ワークショップ |
| 18 | 演習内容をグループに分かれて考えシナリオ作りと実技練習② | 講義 ワークショップ |
| 19 | 演習内容をグループに分かれて考えシナリオ作りと実技練習③ | 講義 ワークショップ |
| 20 | 課題発表 | 講義 ワークショップ |
| 21 | 課題発表 | 講義 ワークショップ |
| 22 | 定期試験 | |
| 23 | まとめ | 講義・演習 |

<2024年度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|--|-----|------|-------|-----------|
| 科目 | 介護過程Ⅳ | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 2年次 |
| | | 教授法 | 講義 | 単位数コマ | 2単位(15コマ) |
| 教員 | 畠山 仁美 | 領域 | 介護 | 実務経験 | 福祉・社協 |
| 教科書 | 最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程(中央法規) | | | | |
| 参考書 | 介護過程の展開(日本介護福祉士会)、介護過程の展開(メヂカルフレンド社・建帛社) | | | | |
| 成績評価 | 定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価 | | | | |
| 評価基準 | S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満) | | | | |
| 到達目標 | 専門職としての理念を構築し、アイデンティティを確立するとともに、実践的思考とスキルの修得を目指す | | | | |
| 留意点 | 実践力を身につける | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | ●実習における介護過程の展開を実践 ●小テスト前の学習(復讐) | | | | |
| 授業内容 | 介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 ①多様な事例を基に、課題を見つける力を身につける ②介護現場におけるサービス担当者会議の展開方法を理解する ③介護施設における苦情処理について演習を交えて対処法を考える ④より具体的内容により、介護過程の展開の重要性を理解する | | | | |

授業内容

| 日程 | 内 容 | 使用機材等 |
|----|---|-------|
| 1 | 第5章 利用者の生活と介護過程の展開 第1節 利用者のさまざまな生活と介護過程の展開 1 介護福祉士の仕事の魅力 2 事例について | 講義 |
| 2 | 第2節 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 ① | 講義・演習 |
| 3 | 第2節 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 ② | 講義・演習 |
| 4 | 第2節 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 ③ | 講義・演習 |
| 5 | 第2節 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 ④ | 講義・演習 |
| 6 | 第2節 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 ⑤ | 講義・演習 |
| 7 | 第2節 事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 ⑥ | 講義・演習 |
| 8 | ケアカンファレンス演習 ① | 講義・演習 |
| 9 | サービス担当者会議演習準備 | 講義・演習 |
| 10 | サービス担当者会議演習 | 講義・演習 |
| 11 | ひも解きシート について講義 ●事例1 | 講義・演習 |
| 12 | ひも解きシート ●事例2 | 講義・演習 |
| 13 | 定期試験 | |
| 14 | 試験返却 苦情処理とは(事例説明) | 講義・演習 |
| 15 | 苦情処理ロールプレイ | 講義・演習 |

<2024年度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|---|-----|-------|-------|-----------|
| 科目 | 介護総合演習Ⅱ | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 2年次 |
| | | 教授法 | 講義・演習 | 単位数コマ | 4単位(30コマ) |
| 教員 | 中居 時子 | 領域 | 介護 | 実務経験 | 介護施設 |
| 教科書 | 最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 第2版 (中央法規) | | | | |
| 参考書 | 介護福祉用語辞典、よくわかる介護記録の書き方 | | | | |
| 成績評価 | 授業態度及び出席状況 提出物 実習評価 ボランティア活動状況 等総合的に評価 | | | | |
| 評価基準 | 2/3以上出席していること。年3回以上のボランティア活動。実習評価基準を超えていること。 | | | | |
| 到達目標 | ① 実習に臨む基本的な姿勢を身につけ、明るく元気に積極的な実習ができる。 ② 利用者の気持ちに寄り添い、利用者の立場に立って考えられる姿勢を身につける。 ③ 介護職員をはじめとする様々な人との人間関係を築くことができるようになる。 | | | | |
| 留意点 | | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・実習前に検便の実施、オリエンテーションに向く。 ・実習に向けて体調管理を行う。 ・後期実習前にはインフルエンザの予防接種を受ける。 ・研究発表会に向けての文章作成 (PCの関係上、授業外や自宅での作業もありえます) ※検便回収日 前期:4月24、25日 後期:9月9、10日 | | | | |
| 授業内容 | 介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 ① 介護実習に向けての心構え、準備を行う。 ② 自己の実習目標を持ち実習に臨み、実践を通して課題を明確にすることができる。 ③ 実習記録についての見直しを行い、誰が見ても理解できる記録が書けるようになる。 | | | | |

授業内容

| 日程 | 内 容 | 使用機材等 |
|----|-------------------------------------|---------------|
| 1 | 授業ガイダンス 介護実習概要の説明 個別援助計画作成に向けて ① | 教科書 |
| 2 | 個別援助計画作成に向けて ② | 教科書 |
| 3 | 個別援助計画作成に向けて ③ | 教科書 |
| 4 | 関係書類作成 | 実習ファイル |
| 5 | 実習先施設オリエンテーション | 実習ファイル スーツ |
| 6 | 実習先施設オリエンテーション | 実習ファイル スーツ |
| 7 | 実習関連書類の配布 最終確認 実習に向けての心得 | 実習ファイル 教科書 |
| 8 | 実習関係書類の作成 前期実習直前の準備・確認 | 実習ファイル |
| 9 | 第Ⅱ期 前期施設実習 帰校日 | 実習ファイル |
| 10 | 第Ⅱ期 前期施設実習 帰校日 | 実習ファイル |
| 11 | 第Ⅱ期 前期施設実習 帰校日 | 実習ファイル |
| 12 | 第Ⅱ期 前期施設実習 帰校日 お礼状の下書きを7/3(水)提出) | 実習ファイル |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|-----------------------------|--------------------|
| 13 | お礼状作成 提出物提出（お礼状の下書きを7/3提出） | 実習ファイル |
| 14 | 介護計画について 前期実習の振り返り 介護計画のまとめ | 実習ファイル |
| 15 | 実習記録 振り返り 国家試験受験に向けて | 実習ファイル 国家試験手引き |
| 16 | 個別援助計画作成に向けて ③ | 教科書 採便容器 実習ファイル |
| 17 | 実習関係書類作成 | 教科書 実習ファイル |
| 18 | 第Ⅱ期後期実習直前の準備・確認 | 教科書 実習ファイル |
| 19 | 第Ⅱ期後期実習 オリエンテーション | 教科書 実習ファイル |
| 20 | 第Ⅱ期後期実習 オリエンテーション | 実習ファイル スーツ |
| 21 | 第Ⅱ期 後期施設実習 帰校日 | 実習ファイル スーツ |
| 22 | 第Ⅱ期 後期施設実習 帰校日 | 教科書 |
| 23 | 第Ⅱ期 後期施設実習 帰校日 | 実習ファイル |
| 24 | 第Ⅱ期 後期施設実習 帰校日 | 実習ファイル |
| 25 | お礼状作成 提出物提出 | 実習ファイル |
| 26 | 介護計画のまとめ | 実習ファイル |
| 27 | 介護計画のまとめ | 実習ファイル |
| 28 | 介護計画のまとめ | 実習ファイル |
| 29 | 事例研究に向けて | 実習ファイル |
| 30 | 国家試験受験に向けて | 国家試験の手引き |

(2024年度)

授業要項

| | | | | | |
|-------|--|-----|---------|-------|-----------|
| 科目 | 認知症の理解Ⅱ | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 2年次 |
| | | 教授法 | 講義 | 単位数コマ | 2単位(15コマ) |
| 教員 | 中澤 純一 | 領域 | 心と体のしくみ | 実務経験 | 介護施設 |
| 教科書 | 介護福祉士養成講座13 認知症の理解 中央法規 | | | | |
| 参考書 | ボクはやっと認知症のことがわかった 長谷川和夫著 KADOKAWA 認知症の医療とケア 藤本直規・奥村典子著 クリエイトかもがわ | | | | |
| 成績評価 | 試験65% レポート15% 授業参加度20% | | | | |
| 留意事項 | 講義のほかに、予習復習を繰り返して知識を定着させていきましょう 想像する力を養うために様々な出来事に興味をもってみましょう | | | | |
| 科目の目標 | 認知症の原因疾患及び症状について、実践的に理解する。認知症の人を取り巻く環境を歴史的背景を含め様々なサポートの意味を理解する。また、本人や介護者家族への支援方法を学び実践に繋げる力を身につける。 | | | | |
| 授業概要 | 介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 認知症の原因疾患及び症状について学んだ上で、それら中核症状が認知症の人にいかに関与し生活障害を及ぼしているのかをケアの実践に繋げて考えること。またそこから支援の仕方でのQOLの向上や自立した暮らしへと繋がっていくことができることを学びます。 認知症の人の声を聴こうというキャッチフレーズで終わるのではなく、彼らから発せられた言葉の中にある想いを共感し共有できる専門職になれるように、講義だけではなく、映像演習やグループワークを含めた授業を行います。 認知症の人への様々なサポートや介護者家族への支援について考えます。 | | | | |

授業内容

| 日程 | 内 容 | 使用機材等 |
|----|---|------------|
| 1 | 認知症の医学的理解のまとめと振り返り | 配付資料 |
| 2 | 認知症の症状・診断・治療・予防/認知症の治療薬と予防 (様々な治療薬とその意味/予防の考え方その背景とその意味) | テキスト講義 |
| 3 | 障がいをかかえて生きる事への支援/認知症ケアの理念と視点 (歴史的背景と現時のケアの視点・理念と実践) | テキスト講義・演習 |
| 4 | 障がいをかかえて生きる事への支援/認知症ケアの理念と視点 (理念と実践/適切な関わりとその意味) | テキスト講義・演習 |
| 5 | 障がいをかかえて生きる事への支援/認知症当事者の視点 (認知症の人の思いとそれに即したケア) | 映像演習 (DVD) |
| 6 | 認知症ケアの実際/パーソンセンタード・ケア (見つめるべき認知症ケアの基本) | テキスト講義 |
| 7 | 認知症ケアの実際/アセスメントツール (各アセスメントツールとその視点) | テキスト講義 |
| 8 | 認知症ケアの実際/コミュニケーション (障がいごとに考えるコミュニケーションの基本的理解) | テキスト講義・演習 |
| 9 | 認知症ケアの実際/認知症の人へのケア (各生活に合わせたケアの視点【その1】) | テキスト講義 |
| 10 | 認知症ケアの実際/認知症の人へのケア (各生活に合わせたケアの視点【その2】) | テキスト講義・演習 |
| 11 | 認知症ケアの実際/認知症の人の終末期医療と介護・環境づくり (終末期医療と介護の関わり/環境づくりのポイント) | テキスト講義 |
| 12 | 介護者支援/家族支援・介護福祉職への支援/ケアモデルと働く環境 (介護者家族の心理的・身体的負担とその支援) | テキスト講義 |
| 13 | 認知症に関する映像研修 | DVD映像確認 |
| 14 | 認知症の人の地域生活支援/制度・サービス・機関・地域作り (多職種連携を含めた支援体制) | テキスト講義・演習 |
| 15 | 定期試験 | |

<2024年度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|---|-----|---------|-------|-----------|
| 科目 | 障害の理解Ⅱ | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 2年次 |
| | | 教授法 | 講義 | 単位数コマ | 2単位(15コマ) |
| 教員 | 畠山 仁美 | 領域 | 心と体のしくみ | 実務経験 | 福祉施設 |
| 教科書 | 最新 第2班 介護福祉士養成講座 14 障害の理解 (中央法規) | | | | |
| 参考書 | 医学一般(メヂカルフレンド社)心と体のしくみ(中央法規・(メヂカルフレンド社) 解剖学・生理学(医学書院) | | | | |
| 成績評価 | 定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価 | | | | |
| 評価基準 | S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満) | | | | |
| 到達目標 | 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的知識を習得する | | | | |
| 留意点 | 具体的事例を織り交ぜてよりわかりやすいように講義する | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | <ul style="list-style-type: none"> ●実習における現場における医療的ケアの見学 ●小テスト前の学習(復讐と予習) | | | | |
| 授業内容 | 介護福祉士として介護施設等での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 ①障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援を理解する ②障害のある人の生活を地域で支える為のサポート体制や他職種連携・協働の在り方を理解する ③障害のある人を支える家族の課題を理解し、支援内容について考える | | | | |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|---|-------------------|
| 1 | 第3章 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ 第1節 知的障害 その1 | 講義 ワークショップ |
| 2 | 第1節 知的障害 その2 | 講義 |
| 3 | 第2節 精神障害 その1 | 講義 |
| 4 | 第2節 精神障害 その2 | 講義 |
| 5 | 第3節 高次脳機能障害 その1 | 講義 |
| 6 | 第3節 高次脳機能障害 その2 | 講義 |
| 7 | 第4節 発達障害 その1 | 講義 |
| 8 | 第4節 発達障害 その2 | 講義 |
| 9 | 第5節 難病 その1 | 講義 |
| 10 | 第5節 難病 その2 | 講義 |
| 11 | 第4章 連携と協働 第1節 地域のサポート体制 | 講義 |
| 12 | 第2節 チームアプローチ | 講義 |
| 13 | 第5章 家族への支援 第1節 家族への支援とは | 講義 |
| 14 | 第2節 家族の介護力の評価と家族負担の軽減 | 講義 |
| 15 | 定期試験 | 講義 |

<2024年度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|---|-----|---------|-------|-----------|
| 科目 | 心と体のしくみⅢ | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 2年次 |
| | | 教授法 | 講義 | 単位数コマ | 2単位(15コマ) |
| 教員 | 畠山 仁美 | 領域 | 心と体のしくみ | 実務経験 | 病院・社協 |
| 教科書 | 最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ(中央法規) | | | | |
| 参考書 | 医学一般(メヂカルフレンド社) 喀痰吸引・経管栄養研修テキスト(中央法規) 心と体のしくみ(中央法規・メヂカルフレンド社) 解剖学・生理学(医学書院) | | | | |
| 成績評価 | 定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加点し総合評価 | | | | |
| 評価基準 | S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満) | | | | |
| 到達目標 | 食事・入浴・清潔保持に関連した利用者の状態変化とそれに伴う生活課題を論理的に理解する | | | | |
| 留意点 | 食事や入浴が心と体に及ぼす影響をこれまでの知識を織り交ぜながら確認する | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | ●実習における現場における医療的ケアの見学 ●小テスト前の学習(復習と予習) | | | | |
| 授業内容 | 看護師として病院等での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 ①食事の重要性を理解する ②食事が心と体に影響する内容を理解する ③入浴の重要性を理解する ④入浴が心と体に影響する内容を理解する | | | | |

授業内容

| 日程 | 内容 | 使用機材等 |
|----|--|---------------|
| 1 | 第5章 食事に関連したしくみ 第1節 食事のしくみ 1 なぜ食事をするのか 2 食事に関連した心のしくみ | 講義 ワークショップ |
| 2 | 3 食事に関連したからだのしくみ 演習5-1 | 講義 ワークショップ |
| 3 | 第2節 心身機能の低下が食事に及ぼす影響 1 精神機能の低下が食事に及ぼす影響 2 身体的機能の低下が食事に及ぼす影響 | 講義 ワークショップ |
| 4 | 第3節 変化の気づきと対応 1 食事での観察ポイント 2 食事での医療職との連携のポイント | 講義 ワークショップ |
| 5 | 第6章 入浴・清潔保持に関連したしくみ 第1章 入浴・清潔保持のしくみ 1 なぜ入浴・清潔保持を行うのか 入浴の歴史と基礎知識 2 入浴・清潔保持に関連した心のしくみ | 講義 ワークショップ |
| 6 | 3 入浴・清潔保持に関連した体のしくみ 小テスト | 講義 ワークショップ |
| 7 | 第2節 心身機能の低下が入浴・清潔保持への影響 1 精神機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 2 身体機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響(皮膚機能) | 講義 |
| 8 | 2 身体機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 視覚機能、運動機能、高血圧や動脈硬化、心疾患・呼吸器疾患、その他 | 講義 |
| 9 | 第3節 変化の気づきと対応 1 入浴が身体に及ぼす負担 2 入浴・清潔保持での観察ポイント(温度変化まで) | 講義 ワークショップ |
| 10 | 2 入浴・清潔保持での観察ポイント(心身の状態～) 3 入浴・清潔保持での医療職との連携ポイント 演習6-4 | 講義 |
| 11 | 第9章 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだ 第1節 「死」のとりえ方 ① | 講義 ワークショップ |
| 12 | 第9章 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだ 第1節 「死」のとりえ方 ② | 講義 ワークショップ |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|----------|-------|
| 13 | 総振り返り | 講義 |
| 14 | 定期試験 | |
| 15 | テスト返却・回答 | 講義 |

<2024年度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|--|-----|---------|-------|-----------|
| 科目 | 心と体のしくみⅣ | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 2年次 |
| | | 教授法 | 講義 | 単位数コマ | 2単位(15コマ) |
| 教員 | 畠山 仁美 | 領域 | 心と体のしくみ | 実務経験 | 病院・社協 |
| 教科書 | 最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ(中央法規) | | | | |
| 参考書 | 医学一般(メヂカルフレンド社) 喀痰吸引・経管栄養研修テキスト(中央法規) 心と体のしくみ(中央法規・メヂカルフレンド社) 解剖学・生理学(医学書院) | | | | |
| 成績評価 | 定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価 | | | | |
| 評価基準 | S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満) | | | | |
| 到達目標 | 排泄・睡眠・ターミナルケアについて心と体のしくみとの関連性について理解し、根拠に基づいたケアができるようにする | | | | |
| 留意点 | 具体的事例を織り交ぜてよりわかりやすいように講義する | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | <ul style="list-style-type: none"> ●実習における現場における医療的ケアの見学 ●小テスト前の学習(復讐と予習) | | | | |
| 授業内容 | <p>看護師として病院での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①排泄・睡眠におけるメカニズムを理解する ②心身機能の機能低下が及ぼす影響について理解する ③生活場面における心と体の変化の気づきを理解する ④医療職との連携ポイントを知る ⑤人生の最終段階のケアについて理解する | | | | |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|---|---------------|
| 1 | 第7章 排泄に関連したしくみ 第1節 排泄のしくみ 1 なぜ排泄するのか 2・3排泄に関連した心と体のしくみ(尿) | 講義 |
| 2 | 3排泄の関連した体のしくみ 排便～人工膀胱・肛門 ケアの実際(DVD) 演習7-1、7-2 | 講義 ワークショップ |
| 3 | 第2節 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 1精神・判断力の影響 2身体機能の低下の影響 演習7-3、7-4 | 講義 ワークショップ |
| 4 | 第3節 変化の気づきと医療職との連携 1 観察のポイント 2 医療職との連携ポイント | 講義 |
| 5 | 第8章 休息・睡眠に関連したしくみ 第1節 睡眠のしくみ 1 なぜ睡眠するのか 2睡眠のしくみ | 講義 |
| 6 | 3睡眠の質を高める 演習8-1、8-2 | 講義 ワークショップ |
| 7 | 第2節 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響 1 心身機能低下の影響 2 睡眠障害 3睡眠不足が及ぼす影響 | 講義 ワークショップ |
| 8 | 第3節 変化の気づくためのポイント 1 観察ポイント 2 医療職との連携ポイント 3 緊急対応が必要な例 | 講義 ワークショップ |
| 9 | 第9章 人生の最終段階のケアに関連したしくみ 第2節 「死」に対する心の理解 1 心の変化 2 受容する段階、支援、家族の負担軽減 | 講義 ワークショップ |
| 10 | 第3節 終末期から危篤状態、死後のからだの理解 1身体機能の特徴 2臨終気の対応 | 講義 |
| 11 | 3 死後の体の変化 4 死後の連絡 | 講義 |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|-------------------------------------|---------------|
| 12 | 第4節 医療職との連携 呼吸困難～緩和ケア 試験前振り返り | 講義 |
| 13 | 振り返り | 講義 |
| 14 | 定期試験 | |
| 15 | 試験返却と解答 期ケアについてのまとめ | 講義 ワークショップ |

<2024年度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|--|-----|-------|-------|-----------|
| 科目 | 医療的ケアⅡ | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 2年次 |
| | | 教授法 | 講義・演習 | 単位数コマ | 2単位(20コマ) |
| 教員 | 畠山 仁美 | 領域 | 医療的ケア | 実務経験 | 病院 |
| 教科書 | 最新 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア(中央法規) | | | | |
| 参考書 | 医学一般(メヂカルフレンド社) 喀痰吸引・経管栄養研修テキスト(中央法規) 心と体のしくみ(中央法規・メヂカルフレンド社) 解剖学・生理学(医学書院) | | | | |
| 成績評価 | 定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加し総合評価 | | | | |
| 評価基準 | S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満) | | | | |
| 到達目標 | 介護職が行う喀痰吸引等の医療的ケアの実施における社会的背景と合法化された経緯を理解し、個人の尊厳を基軸におき、安全な療養生活が維持できるように、知識・技術を身につける | | | | |
| 留意点 | 県の喀痰吸引研修用試験適応可能な模擬試験も実施 | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | <ul style="list-style-type: none"> ●実習における現場における医療的ケアの見学 ●実技室での積極的演習 ●小テスト前の学習(復讐) | | | | |
| 授業内容 | <p>看護師として病院での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①喀痰吸引・経管栄養の基本的な留意事項と技術を学ぶ(鼻腔・口腔・気管カニューレ、胃ろう・経鼻) ②医療的ケアにおける手順及び配慮すべきケアの実践を学ぶ ③喀痰吸引・経管栄養における記録とリスク管理と報告書の書き方を学ぶ ④救急蘇生について理解する ⑤評価に向けた実技演習を行い、手順の中にあるリスクへの配慮を理解する | | | | |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|---|---------------|
| 1 | 喀痰吸引について(医療的ケアⅠの振り返り) 喀痰吸引概論:呼吸のしくみ、いつもと違う呼吸状態 | 講義 |
| 2 | 喀痰吸引について 人工呼吸器使用者の喀痰吸引 気管カニューレ内部の吸引と留意事項 | 講義 |
| 3 | 高齢者および障害児・者の喀痰吸引 ●子どもの喀痰吸引(対象者、留意点) ●利用者・家族への対応 | 講義 ワークショップ |
| 4 | 高齢者および障害児・者の喀痰吸引 ●喀痰吸引による危機管理(危険予知と対応) | 講義 ワークショップ |
| 5 | 高齢者および障害児・者の喀痰吸引 ●喀痰吸引時の備品の準備・環境整備(DVD) | 講義・演習 |
| 6 | 高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」実施 ●口腔内喀痰吸引 | 講義・演習 |
| 7 | 高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」実施 ●鼻腔内喀痰吸引 | 講義・演習 |
| 8 | 高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」実施 ●気管カニューレ内喀痰吸引 | 講義・演習 |
| 9 | 高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」実施 ●口腔・鼻腔・気管カニューレ内喀痰吸引の記録作成・提出 | 講義 ワークショップ |
| 10 | 高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施 ●経管栄養とは P165~174 | 講義 |
| 11 | 高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施 ●子供の経管栄養について ●栄養に関する感染予防 | 講義 |

授業内容

| 日 程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-----|---|---------------|
| 12 | 高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施 ●家族への対応 ●安全管理と対応 | 講義 ワークショップ |
| 13 | 高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施 ●経管栄養での器具と管理方法 | 講義 ワークショップ |
| 14 | 高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施手順 ●必要物品準備と環境整備 | 講義 ワークショップ |
| 15 | DVDによる経管栄養確認 | 講義・演習 |
| 16 | 定期試験 | |
| 17 | テスト返却 高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施手順 ●経鼻経管栄養 | 講義・演習 |
| 18 | 高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施手順 ●胃瘻経管栄養 | 講義・演習 |
| 19 | 高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施手順 ●経鼻or胃ろう経管栄養 | 講義・演習 |
| 20 | 喀痰吸引・経管栄養演習 | 講義・演習 |

<2024年度>

授業要項

| | | | | | |
|-------------|---|-----|-------|-------|-----------|
| 科目 | 医療的ケアⅢ | 学科名 | 介護福祉 | 履修年次 | 2年次 |
| | | 教授法 | 演習 | 単位数コマ | 1単位(30コマ) |
| 教員 | 畠山仁美 | 領域 | 医療的ケア | 実務経験 | 病院 |
| 教科書 | 最新 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア(中央法規) | | | | |
| 参考書 | こころとからだの理解(中央法規) 発達と老化の理解(中央法規) 医学一般(メヂカルフレンド社) | | | | |
| 成績評価 | 5手技を各5回試験し、5回目がクリアできること。できない場合はできるまで試験を続ける | | | | |
| 評価基準 | 5手技を各5回以上実践(採点項目すべてを合格すること) | | | | |
| 到達目標 | 倫理性を持ち、理論に基づいた医療的行為が実践できること | | | | |
| 留意点 | 評価基準を同一のものとするための打合せを徹底する | | | | |
| 授業外に必要な学習内容 | <ul style="list-style-type: none"> ●実習における現場における医療的ケアの見学 ●積極的に計画的な実践練習 | | | | |
| 授業内容 | 看護師として病院での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 ①安全に配慮した物品の準備と実践ができる ②手順に沿った実技ができる ③適切な報告と記録が書ける ④環境整備ができる | | | | |

授業内容

| 日程 | 内 容 | 使用機材等 |
|-------|------------------|-------|
| 1～3 | 喀痰吸引(口腔内) 1 | 評価 |
| 4～6 | 喀痰吸引(口腔内) 2 | 評価 |
| 7～9 | 喀痰吸引(鼻腔内) 1 | 評価 |
| 10～12 | 喀痰吸引(鼻腔内) 2 | 評価 |
| 13～15 | 喀痰吸引(気管カニューレ内) 1 | 評価 |
| 16～18 | 喀痰吸引(気管カニューレ内) 2 | 評価 |
| 19～21 | 経管栄養(胃ろう) 1 | 評価 |
| 22～24 | 経管栄養(胃ろう) 2 | 評価 |
| 25～27 | 経管栄養(経鼻) 1 | 評価 |
| 28～30 | 経管栄養(経鼻) 2 | 評価 |